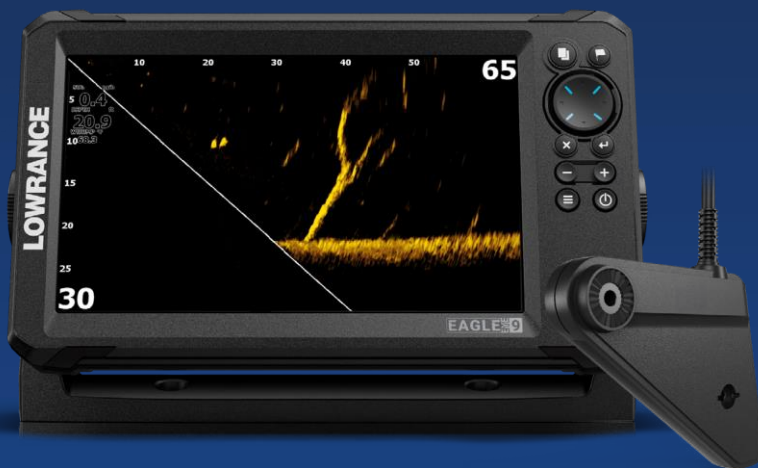


LOWRANCE®

EAGLE EYE™

取扱説明書

日本語



序文

著作権

© 2024 Navico Group. All Rights Reserved. Navico Group は Brunswick Corporationの部門です。

商標

®Reg U.S.Pat. & Tm. Off, および ™common law marks、Navico Groupおよび他の関連企業の商標権と認証に関する情報は www.navico.com/intellectual-property をご覧下さい。

- Navico®はNavico Groupの商標です。
- Lowrance®はNavico Groupの商標です。
- DownScan Imaging™はNavico Groupの商標です。
- DownScan Overlay®はNavico Groupの商標です。
- Easy Routing™はNavico Groupの商標です。
- FishReveal™はNavico Groupの商標です。
- Genesis®はNavico Groupの商標です。
- Navionics®はNavionics S.r.l.の商標です。
- SD®およびmicroSD®はSD-3C, LLCの商標です。
- StructureMap™はNavico Groupの商標です。

安全 ・ 免責事項 ・ コンプライアンス

この製品の安全性、免責事項、コンプライアンスに関する声明は別途の文書として提供されます。

保証

保証カードは別途の文書として提供されます。ご質問がある場合は、お使いのユニットやシステムのブランドウェブサイトをご参照ください。 : www.lowrance.com

この取扱説明書について

この取扱説明書は、Eagle 5、Eagle 7、およびEagle 9を操作するための参考ガイドです。これらのユニットは、取り付けガイドに記載されている仕様に示されたソナーのビューと周波数のみを扱うことができます。ユニットに付属するトランスデューサーの取り付けガイドに仕様が記載されています。モデルはユニットの正面に記載されています。

- EAGLE EYEの振動子はEAGLE EYE本体専用となります。

マニュアルバージョン

このマニュアルは、イーグルアイと共に提供されるソフトウェアの初版向けに作成されています。マニュアルは新しいソフトウェアのリリースに合わせて継続的に更新されます。

ソフトウェアバージョン

このユニットに現在搭載されているソフトウェアバージョンは、システム設定の[About]ダイアログで確認できます。ソフトウェアをアップグレードする方法については、「ソフトウェアの更新」を参照してください（74ページ）。

お問い合わせ

製品サポートおよびサービス情報に

ついては、 <https://out-break.com/lowrance/>をご覧ください。

目次

9 はじめに

- 9 フロントパネル
- 10 ホームページ
- 11 アプリケーションページ
- 13 WEB保証登録申請

14 基本操作

- 14 システムのオン/オフ
- 14 システムコントロールダイアログ
- 15 スタンバイモード
- 15 ディスプレイ照度
- 15 メニュー・ダイアログの使用
- 16 パネル上でのカーソルの使用
- 16 Man Overboard(船外転落)ウェイポイント
- 17 スクリーンショット

18 システムのカスタマイズ

- 18 ホームページ壁紙のカスタマイズ
- 18 データのオーバーレイ
- 19 カスタムページ
- 21 マルチパネルページの分割調整

22 チャート

- 22 チャートパネル
- 22 チャートデータ
- 23 チャートタイプの選択
- 23 船マーク
- 23 チャートの縮尺
- 23 チャートのパニング
- 23 ウェイポイント・ルート・航跡
- 23 ナビゲーション機能
- 24 チャート項目についての情報表示
- 24 チャートパネル上のオブジェクト検索
- 25 追加のオプション
- 27 C-MAP チャート
- 28 Navionics® チャート
- 32 チャートの設定

34 ウェイポイント・ルート・航跡

- 34 ダイアログ
- 35 ウェイポイント
- 36 ルート
- 40 航跡

43 ナビゲーション機能

- 43 ナビゲーション機能について
- 43 メニューオプション
- 43 カーソル位置へのナビゲーション
- 44 ウェイポイントへのナビゲーション
- 44 ルートのナビゲーション
- 44 ナビゲーションの設定

46 ソナー

- 46 ソナー画像
- 46 画像のズーム
- 47 画像上でのカーソル使用
- 47 履歴の閲覧
- 47 ソナーログデータの記録開始
- 48 記録した音響データの閲覧
- 49 画像設定のカスタマイズ
- 49 カスタム・アイスフィッシングモードオプション
- 51 その他のオプション
- 53 ソナーの設定

56 ライブソナー

- 56 ライブソナーについて
- 56 ライブソナーフォワードパネル
- 57 ライブソナーダウンパネル
- 57 画像を拡大/縮小する
- 57 パネル上でのカーソル使用
- 57 ライブソナー動画の録画
- 58 各種モードと画像設定
- 60 追加のオプション

61 ダウンスキャン

- 61 ダウンスキャンについて

- 61 ダウンスキャンパネル
- 61 ダウンスキャン画像のズーム
- 61 ダウンスキャンパネル上でのカーソル使用
- 62 ダウンスキャン履歴の閲覧
- 62 ダウンスキャンデータの記録
- 62 画像設定のカスタマイズ

66 アラーム

- 66 アラームシステム
- 66 メッセージの種類
- 66 アラームメッセージ
- 66 メッセージの確認
- 67 アラームのダイアログ

68 ツール

- 76 設定
- 76 ウェイポイント・ルート・航跡
- 76 インフォメーション
- 76 ストレージ

73 メンテナンス

- 73 予防メンテナンス
- 73 ディスプレイユニットのクリーニング
- 73 コネクターのチェック
- 73 サービスアシスタント
- 74 ソフトウェアのアップデート
- 75 システムデータのバックアップ
- 77 バックアップファイルのインポート

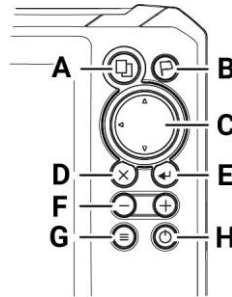
78 シミュレーター

- 78 リテールモード
- 78 シミュレーターソースファイル
- 79 高度なシミュレーターの設定

1

はじめに

フロントパネル



A. ページボタン

- ホームページが開きます。

B. ウェイポイントボタン

- 新しいウェイポイントダイアログが開きます。
- 2回押すとウェイポイントが保存されます。
- 長押しで検索ダイアログが開きます。

C. 矢印ボタン

- 全てのフルスクリーンページ：
 - 押すと画像上でカーソルを移動します。
 - 明日と画像を任意の方法に振ります。
- マルチパネルページ：
 - 押すとパネルを選択できます。:
 - 押すとオプションをハイライトします。

D. イグジット(X)

- 最大化したマルチパネルページ
- 押すとマルチパネルページに戻ります。
- メニューおよびダイアログ上
 - 押すと前のメニューに戻ったり、ダイアログを閉じます。

E. エンター

- マルチパネルページ上：
 - 押すと現在選択しているパネルを最大化します。
- メニューおよびダイアログ上：
 - 押すと選択を決定します。

F. ズーム

- 押すと画像がズームします。
- 2つのボタンを同時に押すと、ボート位置にMOB(船外転落)ウェイポイントを作成します。

G. メニュー

- メニューおよびダイアログが起動していない全てのフルスクリーンページ上：押すとメニューを表示します。

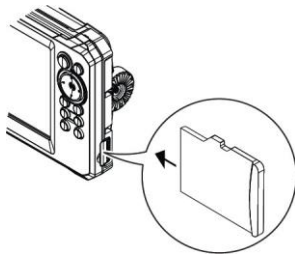
H. 電源ボタン

- 短押しでシステムコントロールダイアログを開きます。
- 長押しで本体電源をオン/オフします。
- 短押しを繰り返すことで、バックライト照度を調整します。

マイクロSDカード

モデルによって、カードリーダーは本体側面もしくは全面のいずれかにあります。

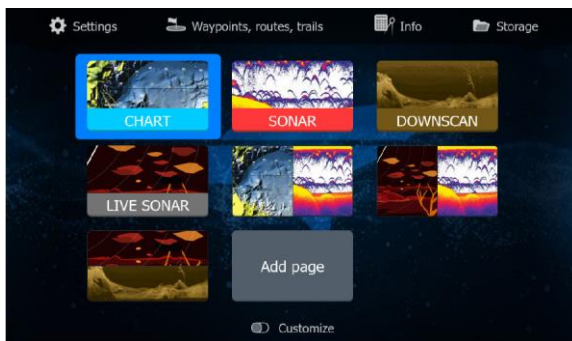
➡**注意**：マイクロSDカードの挿入する向きにご注意ください。



ホームページ

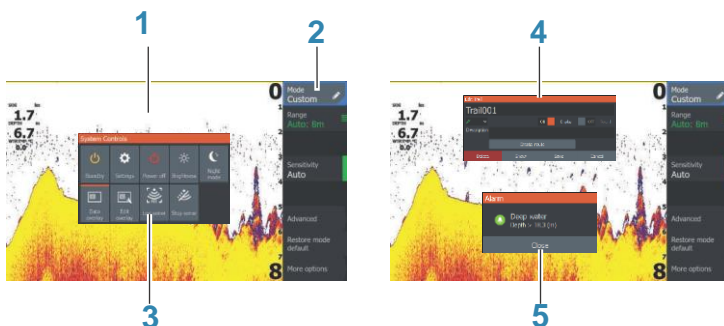
ページボタンを押すと、どの操作からでもホームページにアクセス出来ます。

➡**注意**：ホームページ上のアイコンはモデルによって異なります。



- 1 ツールパネル - ボタンを選択し、タスクの実行または保存した情報を閲覧するダイアログにアクセスします。
- 2 アプリケーションページアイコン - ボタンを選択し、アプリケーションページを表示します。
- 3 カスタマイズ - カスタムモードを起動し、カスタムページの削除・編集をします。

アプリケーションページ



- 1 アプリケーションパネル
- 2 メニュー - サイドメニュー
- 3 システムコントロールダイアログ - 基本的なシステム設定へワンタッチでアクセス
- 4 ダイアログ - ユーザーが入力した情報

5 アラームメッセージ - 危険な状況またはシステムの故障が発生した場合の表示。

システムに接続された各アプリケーションはパネル上に表示されます。アプリケーションは、単独のページとして表示されることもありますが、複数のパネルが組み合わさったページとしても表示されることがあります。すべてのアプリケーションページはホームページからアクセスできます。

カスタムページ

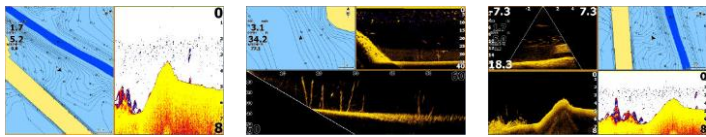
システムには、ダウンライブ用とフォワードライブ用の2つの事前構成されたカスタムページを含む、3つのカスタムページが付属しています。これら2つのページは、ダウンモードとフォワードモードの間で切り替えることはできず、メニューオプションも存在しません。

自分自身のカスタムページを作成することができ、ライブソナーページはダウンライブとフォワードライブの間で切り替えることができます。カスタムページを追加するには、19ページの「新規カスタムページの追加」を参照してください。

カスタムページを編集または削除するには、20ページの「カスタムページの編集または削除」を参照してください。

マルチパネルカスタムページ

カスタムページでは最大4つのパネルを表示できます。P.19の「新規カスタムページの追加」を参照ください。



2パネルページ

3パネルページ

4パネルページ

マルチパネルページ内のパネルサイズはシステムコントロールダイアログで調整可能です。P.21「マルチパネルページの分割の調整」を参照ください。

- ・カーソルがどのパネルにもアクティブでない場合、矢印キーを使用してアクティブパネルを切り替えます。アクティブなパネルはオレンジの枠線で表示されます。
- ・アクティブパネルを最大化するには、Enterキーを押します。複数のパネルページに戻るにはExitキーを押してください。

- ・パネルメニューを表示するには、まずパネルを最大化する必要があります。最大化されたら、再度Enterキーを押して最大化されたパネルのメニューを表示します。メニューを閉じるにはExitキーを押し、再度Exitキーを押すことで複数のパネルページに戻ります。

- ・アクティブまたは最大化されたパネルでカーソルをアクティブにするには、矢印キーを押し、その後矢印キーを使用してカーソルの位置を調整します。カーソルを削除するにはExitキーを押してください。

WEB保証登録申請

購入した商品を受け取ってから7日以内に、WEB保証登録を申請します。申請は商品に同梱されている『保証登録のご案内』に記載のQRコードを読み込み、スマホやPCから簡単に申請可能です。商品を受け取ってから申請までに期間が空き過ぎると、メーカー保証が短くなる恐れがあります。速やかな申請をお願いします。

詳しくは、<https://out-break.com/lowrance/warranty>をご覧ください。

2

基本操作

システムのオン/オフ

電源キーを押して、システムをオンにします。

電源キーを長押しして、本体をオフにします。

シャットダウンが終了する前にキーを放すと、電源オフのプロセスはキャンセルされます。

システムコントロールダイアログからでもユニットをオフにすることが可能です。

最初の起動時

最初に本体を起動した時、またはリセットした後、本体には一連のダイアログが表示されます。ダイアログの指示に従って、基本設定を行ってください。

さらにセットアップをすすめることも、システム設定ダイアログを使って後で設定を変更することもできます。

システムコントロールダイアログ

システムコントロールダイアログで、簡単に基本的なシステム設定にアクセス可能です。電源キーを短押しすると、ダイアログが表示されます。

ダイアログに表示されるアイコンは異なる場合があります。たとえば、画面分割調整オプションは、システムコントロールダイアログを開いたときに、複数のパネルページを表示している場合にのみ利用可能です。



機能の有効化

設定またはオンオフを切り替えたい機能のアイコンを選んでください。

オンオフを切り替える機能については、上記のデータオーバーレイアイコンに示すように、アイコンの上にオレンジ色のバーが出て機能が有効であることを示します。

スタンバイモード

スタンバイモードでは、ソナーおよびスクリーンのバックライトがオフになって節電します。システムはバックグラウンドで実行され続けます。

スタンバイモードは、システムコントロールダイアログから選びます。電源キーの短押しで、スタンバイモードから通常操作に切り替えます。

ディスプレイ照度

明るさ

電源キーの短押しを繰り返すと、プリセットされたバックライトの明るさを切り替えることができます。

ディスプレイのバックライトは、システムコントロールダイアログからも調整可能です。

夜間モード

夜間モードは、システムコントロールダイアログから調整可能です。夜間モードオプションで、光が乏しい条件下でのカラーパレットを最適化します。

メニュー・ダイアログの使用

メニュー

メニューは、システム操作および設定の調整に使用します。

メニュー/エンターキーを押してページメニューを表示します。メニュー/エンターキーを再度押してメニューを閉じます。

矢印キーを使ってメニューのオプションをハイライトし、メニュー/エンターを押して選択を決定します。

スクロールバー：メニュー内でスクロールバーを有効にして、矢印キーを使って調整します。メニュー/エンターキーを押して調整を保存します。

カーソルの状態(有効/無効)はメニューのオプションで変更します。

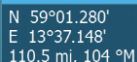
ダイアログボックス

矢印キーを使ってダイアログのオプションをハイライトし、メニュー/エンターキーを押して選択を決定します。

ダイアログにユーザー情報を入力するために必要な際は、数字とアルファベットのキーボードが自動的に表示されます。入力の保存またはキャンセルでダイアログが閉じます。またイクジット(X) キーを押してダイアログを閉じることもできます。

パネル上でのカーソル使用

カーソルは、位置決め、アイテム選択に使用できます。デフォルトでは、カーソルはパネル上に表示されません。カーソルが有効の時は、カーソル位置ウィンドウが表示されます。



N 59°01.280'
E 13°37.148'
110.5 mi, 104 °M

Man Overboard(船外転落)ウェイポイント

非常事態が発生した場合は、ボートの現在位置にMan Overboard (MOB) (船外転落) ウェイポイントを保存できます。

MOBの作成

Man Overboard (MOB)ウェイポイントの作成方法：

- ズームイン(+)アウト(-)を同時に押します。
MOB機能を有効にすると、以下の動作が自動的に実行されます。
- ボート位置にMOBウェイポイントを作成します。
- ディスプレイがズームインされたチャートパネルに切り替わり、ボート位置を中心とします。
- システムが、MOBウェイポイントに戻るための航法情報を表示します。

複数のMOBウェイポイントを作成できます。ボートは、初期のMOBウェイポイントへの航法情報を示し続けます。次のMOBウェイポイントへの航法は、手動で行う必要があります。

MOBの削除

MOBが有効になっているときは、メニューから MOBウェイポイントを削除できます。

MOBへのナビゲーションの停止

メニューから航法を取り消すまで、システムはMOBウェイポイントまでの航法情報を表示し続けます。



スクリーンショット

スクリーンショットの撮影方法：

- ページキーと電源キーを同時に押します。

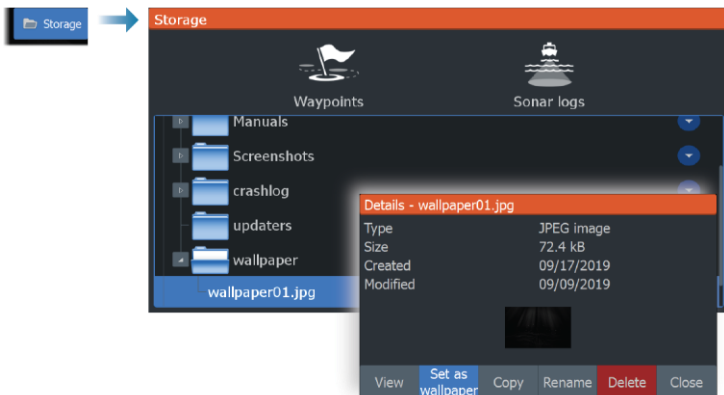
3

システムのカスタマイズ

ホームページ壁紙のカスタマイズ

ホームページの壁紙はカスタマイズが可能です。システム内に含まれている写真から選ぶか、.jpgまたは.pngフォーマットの自分の写真を使うかを選ぶことができます。

ファイルブラウザで閲覧できるすべての場所にある画像が利用可能です。画像を壁紙に選ぶと、壁紙フォルダー内に自動的にコピーされます。



データのオーバーレイ

データ情報をページ上にオーバーレイとして表示させることが可能です。

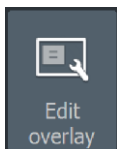
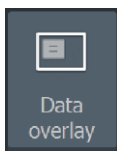
データオーバーレイのオン/オフ

システムコントロールダイアログからデータオーバーレイアイコンで選ぶと、有効なページについてオーバーレイデータをオンオフできます。データオーバーレイがオンのときは、オレンジ色のバーがアイコン上に現れます。

オーバーレイデータの編集

システムコントロールダイアログ上のオーバーレイの編集アイコンを使って編集メニューのオプションにアクセスして、以下を行います:

- 有効なパネルに新しいデータオーバーレイを追加。
- 選んだデータオーバーレイを削除。
- 選んだデータオーバーレイを変更し、異なるデータを表示。



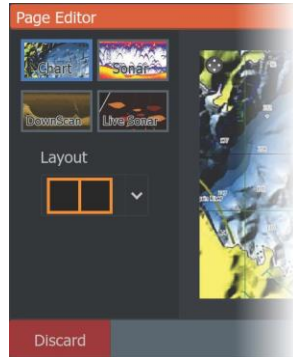
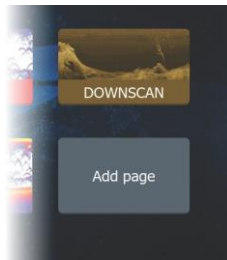
- 選んだデータのオーバーレイの見え方を設定 (デジタルかアナログか、サイズなど)。
- アイテムを選んで位置を変え、その後Moveメニューのオプションへ。矢印キーを使用して選んだアイテムを移動。

カスタムページ

新規カスタムページの追加

最大9ページが可能です。カスタムページでは最大4個のパネルが表示可能です。

1. ホームページ上のページの追加アイコンを選び、ページ編集ダイアログを開きます。



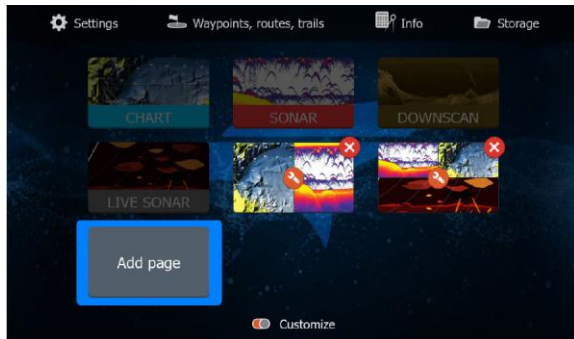
2. 矢印キーを使ってパネルをハイライトしメニュー/エンターキーを押します。パネルがそのページに追加されます。
3. (オプション)ステップ2を繰り返して、追加のパネルを追加します。最大4パネルが可能です。
 - レイアウトの変更：矢印キーを使ってレイアウトのオプションを選びます。このオプションを使ってパネルをどのように表示するかを指定します。
 - パネルの削除：矢印キーを使ってダイアログ右側の枠を選び、パネル右上の削除 (X) アイコンをハイライトします。メニュー/エンターキーを押します。パネルがダイアログ右側の枠から消えます。
 - パネルの移動：矢印キーを使ってダイアログ右側の枠を選び、移動させるパネルの左上の矢印アイコンをハイライトします。メニュー/エンターキーを押します。大きな矢印アイコンが表示されます。矢印キーを使用してハイライトしたパネルを移動させます。メニュー/エンターキーを押して調整を保存します。

4. ページレイアウトの保存

システムは新しいカスタムページを表示し、新しいページのアイコンがホームページ上に含まれます。

カスタムページの編集・削除

1. ホームページ上で、矢印キーを使用してカスタマイズしたオプションをハイライトし、メニュー/エンターキーを押してカスタマイズしたオプションをオンにします。



2. 矢印キーを以下の用途で使用します:

- カスタムページアイコン上のXオプションを選び、メニュー/エンターキーを押してページを消去。
- カスタムページアイコン上のツールオプションを選び、メニュー/エンターキーを押してページ編集ダイアログを表示。

3. カスタムページ編集ダイアログを使って、パネルをレイアウト変更、追加、および消去します。P.19の「新規カスタムページの追加」のステップ3を参照ください。

4. 変更を保存または破棄して編集モードを終了します。

マルチパネルページの分割調整

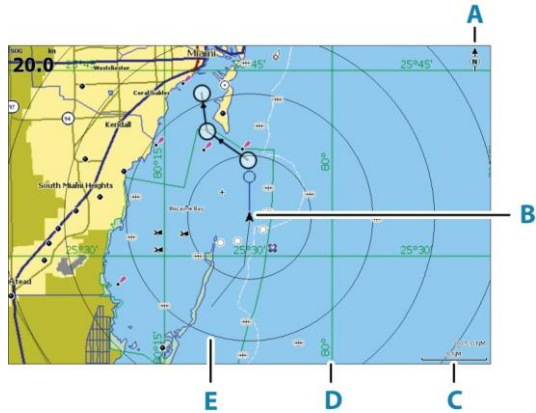
1. マルチパネルページを開きます。
2. 電源キーを短く押して、システムコントロールダイアログを開きます。
3. 分割の調整オプションを選びます。カーソルの矢印アイコンがマルチパネルページに表示されます。
4. 矢印キーを使って分割したい位置に移動させます。
5. メニュー/エンターキーを押して分割の調整を保存します。



4

チャート

チャートパネル



- A. コンパス
- B. ボート
- C. 地図縮尺
- D. グリッドライン*
- E. レンジリング*

* オプションチャート項目。オプションチャート項目はチャート設定ダイアログから個別にオンオフすることが可能です。

チャートデータ

システムには予め地図作成法が読み込まれています。

選択可能な対応チャートについては、製品のウェブサイトを参照ください。

➡注意：チャートメニューのオプションは、お使いのチャートに応じて決まります。

➡注意：チャートカードが取り外されている場合、システムが予め読み込んだ地図作成自動的に切り替わることはありません。カードを再度挿入するか、予め読み込んだ地図作成法に手動で切り替えて戻すまでは、低解像度のチャートが表示されます。

チャートタイプを選択

チャート設定ダイアログ内で利用可能なチャートタイプのいずれかを選んで、チャートパネル上に示されるチャートタイプを指定します。P.33の「チャートの設定」を参照ください。



船マーク

GPSポジションロックが有効な場合、ボートマークはボート位置を示します。GPSポジションが無効の場合は、ボートマークに？が表示されます。

チャートの縮尺

ズームキーを使用して、チャート上でズームイン/アウトします。地図縮尺とレンジリングの間隔(オンにしているとき)は、チャートパネルの右下角に示されています。

チャートのパニング

矢印キーでチャートを任意の方向へ移動できます。チャートパネルの端にカーソルを合わせ、希望の方向へ動かします。

カーソル/ウェイポイントキーを押すと、カーソルが非表示になります。この時、チャートの中心にボート位置がきます。

ウェイポイント・ルート・航跡

ページ上で、ウェイポイント、ルート、航跡を配置・管理できます。詳細は、P.34の『ウェイポイント、ルート、航跡』を参照ください。

ナビゲーション機能

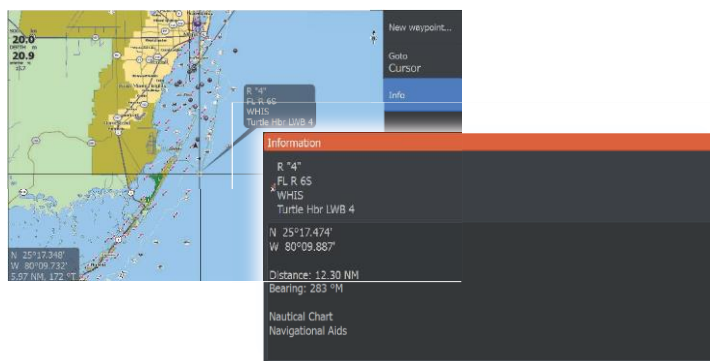
カーソル、ウェイポイントへのナビゲーション機能、もしくはルート上のナビゲーション機能を行うことが可能です。P.43の「ナビゲーション機能」を参照ください。

チャート項目についての情報表示

カーソルをチャート項目、ウェイポイント、航跡またはルート上に合わせると、選んだ項目についての情報がポップアップで表示されます。

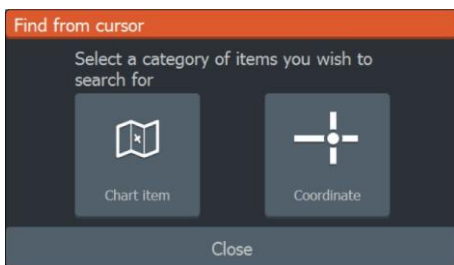
➡**注意：** 基本項目の情報を見るには、ポップアップの情報がチャート設定内で有効にされる必要があります。

メニューから情報のオプションを選んで、カーソルの傍に項目のリストを表示します。リストから項目を選んで、その項目で利用可能な全情報を表示します。



チャートパネル上のオブジェクト検索

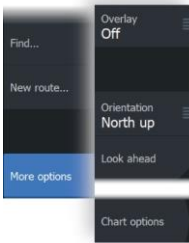
検索メニューのオプションを選んで、チャートの項目を検索します。



追加のオプション

チャートオーバーレイ

チャートパネル上のオーバーレイを増やすことができます。オーバーレイをひとつ選ぶと選択したオーバーレイに対する基本的なメニューオプションを含むチャートメニューが開きます。オーバーレイメニューオプション詳細は、下記もしくは本マニュアルの別のセクションで説明しています。



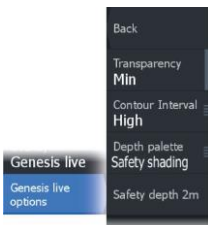
ジェネシスライブ オーバーレイ

- ▶**注意**：LOWRANCEもしくはC-MAPチャートソースを閲覧している時のみ、利用できます。
- ▶**注意**：データを記録する前に、空き容量のあるmicroSD®メモリーカードをユニットに挿入する必要があります。

ライブソナーサウンディングを基にマッピングしながら、等深線のオーバーレイをリアルタイムに作成します。ジェネシスライブソナーサウンディングは、本体のメモリーカード上に記録され、メモリーカードから読み込みます。

メモリーカードが入っていない場合、またカード容量が不足の場合、機能自体がオフになり、メニュー上のオプションは無効になります。

- ライブソナーサウンディングログに含まれるエリアをさらに通過することで、ジェネシスライブマップはより良いものが作成できます。
 - ジェネシスライブは最大20ノットまで正確です。
 - Genesisライブはネットワーク接続されたトランスデューサーから記録できます。
 - データのロギングと表示はメモリーカードを搭載したユニット用です。Genesisライブマップはネットワーク上で共有されません。
- ▶**注意**：ジェネシスライブデータは潮汐の補正については調整されません



ジェネシスライブメニューのオプション

透過度

オーバーレイの透過度を調整します。

等深線の間隔

実際に見える等深線の密度を明確にします。

水深パレット

水深を色分けするカラーパレットをコントロールします。

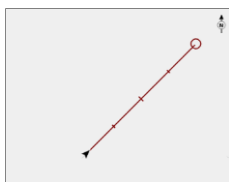
- チャートの同期：チャートメニュー内で明示される 水深パレットと同じパレットにジェネシスライブのレイヤーを同期させます(チャートオプション、ビュー、水深パレット内で)。このオプションにより、カスタムパレットをチャートメニュー内で明示し、ジェネシスレイヤーに適用することができます。
- ナビゲーション -：ナビゲーションパレットを使用します。
- 水深陰影表示：水深陰影パレットを使用します。
- ペーパーチャート：ペーパーチャートパレットを使用します。
- 安全を陰影表示：設定した安全な水深よりも浅い色に影を付けます。ジェネシスライブのメニュー上のセーフティーデプスオプションも有効にします。

安全を陰影表示/セーフティーデプス

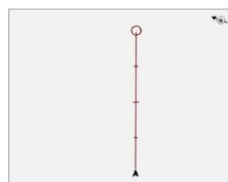
安全な水深の設定をします。安全な最低水深よりも浅いエリアに影をつけます。このオプションはセーフティーシェーディングパレットが選択されている場合のみ利用可能です。

チャート方位

チャートがパネル上でどう回転するか特定します。パネルの右上角にある方位マークは北を指します。



ノースアップ



コースアップ

ノースアップ

北を上にしてGPSプロッター画像を表示します。

コースアップ

チャートの向きは、ナビゲーションしているか否かによります：

- ナビゲーション時：希望のコースが上向きになります。
- ナビゲーション中以外：ボートが実際に移動している方向(COG)が上向きになります。

ルックアヘッド

パネル上の船アイコンを移動し、ボート前方のビューを最大化します。

C-MAPチャート

C-MAPチャートで可能なメニューのオプションをすべて下記に解説します。利用可能な機能およびメニューのオプションは、ご利用中のチャートによって異なります。本セクションではC-MAPチャートのメニューを示しています。

→**注意**：表示されているチャートで利用できない機能は、メニューオプションがグレー表示になっています。

C-MAP 特有のチャートオプション

チャートの詳細

- 高：使用しているチャートで利用可能なすべての情報を表示。
- 中：ナビゲーションに十分な最低限の情報を表示。
- 低：削除不可能な基本情報を表示。すべての地理範囲に必要な情報を含む。安全ナビゲーションを十分に意図したものではない。

ジェネシスレイヤー

ジェネシスレイヤーは、品質チェックをパスしたジェネシスユーザーが提供する高解像度の等深線を表示します。

このオプションは、チャート画像上でジェネシスレイヤーのオンオフを切り替えます。

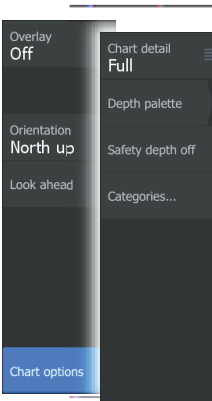
C-MAPチャートがジェネシスレイヤーデータを含む場合にのみ利用可能です。

水深パレット

マップ上で使用される水深パレットをコントロールします。

水深フィルター

選択した水深フィルターの限界よりも浅い水深値を除外します。

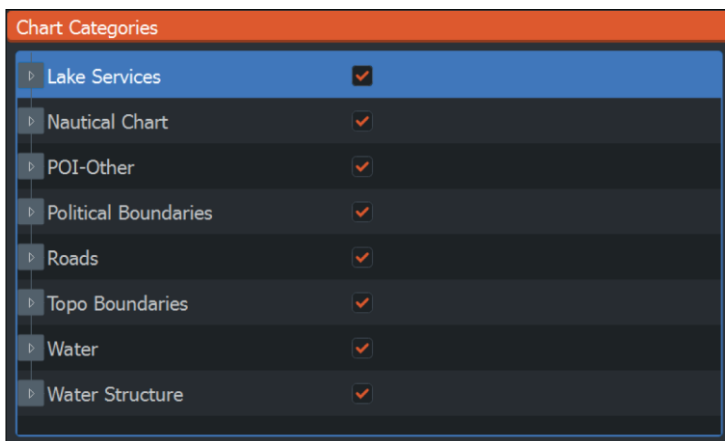


セーフティーデプス

チャートでは、浅瀬(薄い影)と深間(濃い影)を異なるブルーの影で区別しています。セーフティーシェード水深パレットを有効にした後、希望の安全水深限界値を指定します。安全な水深は、青い影のない水深で限界値を設定します。

チャートカテゴリー

幾つかのカテゴリーおよびサブカテゴリーが含まれます。どの情報を見るかに応じて、カテゴリーを個別にオンオフすることが可能です。



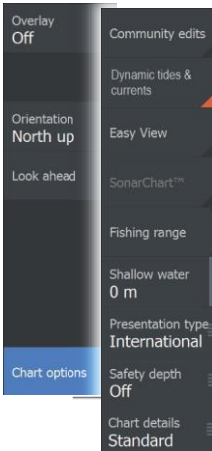
Navionicsチャート

Navionicsの機能の中には、Navionicsの最新データを必要とするものがあります。これらの機能については、適当なNavionicsチャートを有していない、もしくはチャートカードが挿入されていない場合、その機能が利用不可能であることを示すメッセージが表示されます。これらの機能に必要なものの詳細については、www.navionics.comを参照ください。

Navionicsチャートカードが有効になっていないときに制約を受けている機能を使用しようとした場合にも、メッセージが表示されます。カードを有効にするには、Navionicsにご連絡願います。

Navionics特有のチャートオプション

チャートのオーバーレイ、方位、ルックアヘッドオプション (本セクションで前述) は、C-MAPとNavionicsチャートの両方に共通です。Navionicsに特有のチャートオプションを以下に解説します。



コミュニティの編集

Navionicsの編集を含むチャートレイヤー上で切り替わります。これらはユーザーの情報もしくはユーザーがNavionicsコミュニティに読み込んだ編集で、Navionicsチャート内で利用可能です。

詳細については、お使いのチャートに含まれているNavionics情報、もしくはNavionicsのウェブサイト: www.navionics.comを参照ください。

ソナーチャート

システムは、Navionicsのソナーチャート機能に対応しています。ソナーチャートは、高解像度の輪郭の詳細および標準の航法データを示す、海底地形図を表示します。詳細については、www.navionics.comを参照ください。

ソナーチャートライブ

ソナーチャートライブは、デバイスがリアルソナーサウンディングを基に等深線のオーバーレイを作成するリアルタイム機能です。ソナーチャートライブを選択するとメニューが開き、ソナーチャートライブオプションが表示されます。



透過度

ソナーチャートライブオーバーレイは他のチャートデータの上に描画されます。チャートデータは最低限の透過度をもって完全に上書きされます。透過度を調整してチャートの詳細が見えるようにします。

最低水深

ソナーチャートライブの表示で、安全水深として扱うものを調整します。ソナーチャートライブエリアの色に影響します。ボートが安全水深に接近すると、ソナーチャートライブエリアが単色のグレー/白から赤へと徐々に変化します。

SCL履歴

チャートオーバーレイ上に以前記録したデータを表示します。

➔注意 : SonarChartライブは、SCL履歴ファイルが閲覧されている間は記録されません。

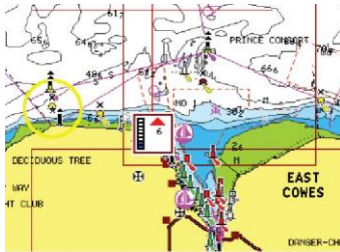
SC間隔

ソナーチャートとソナーチャートライブ等深線の間隔をコントロールします。

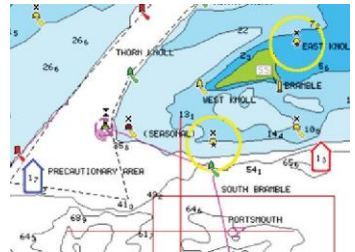
Navionics Dynamic潮流アイコン

静止した潮流情報で使用されるひし形アイコンの代わりに、ゲージと矢印で潮流を示します。

Navionicsチャートで利用可能な潮流データは、特定の日時に関連づけられています。システムでは、矢印と/もしくはゲージで潮流の発達を経時的に示します。



活発な潮汐情報



活発な海流情報

以下のアイコンと記号が使用されます：



海流スピード

矢印の長さは速さを表し、記号は流れの向きに応じて回転します。海流速度は矢印記号内に示されています。赤い記号は海流の加速、青い記号は減速を表します。



潮の高さ

ゲージは8段階で、測定日の絶対最高/最低値に応じて設定されます。赤い矢印は満潮、青い矢印は干潮を表します。

➡注意：すべての数値はユーザーが設定した関連する単位系（測定単位）で示されます。

イージービュー

チャートの項目と文字のサイズを拡大する機能です。

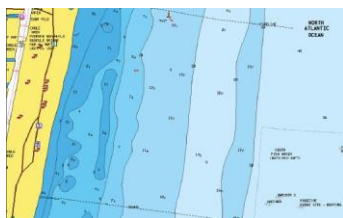
▶注意：この機能が有効であることを示すものは、チャート上にはありません。

フィッシングレンジ

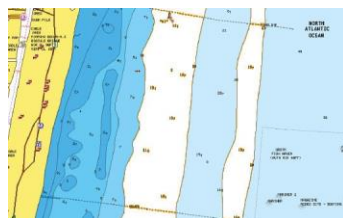
Navionicsの有する異なる色から水深レンジを選択します。

これにより、釣り目的に合った特定水深レンジをハイライトすることができます。レンジの正確さは基礎となるチャートデータ次第です。

チャートの等深線が5m間隔の時、陰影は一番近い等深線に合わせられます。



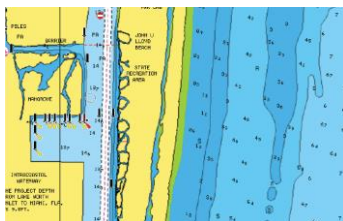
水深ハイライトレンジなし



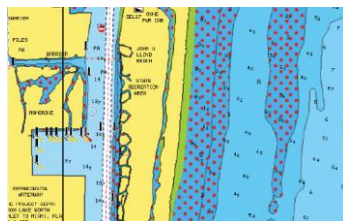
水深ハイライトレンジ 6m-12m

シャローウォーターハイライト

0から選択した水深(最大10m/30ft)までのエリアをハイライトします。



浅瀬ハイライトなし



浅瀬ハイライト: 0m-3m

表示タイプ

ナビゲーションチャートの記号や色、国際もしくは米国の表示タイプに対する文言などのマリンチャート情報を表示します。

表示タイプ

ナビゲーションチャートの記号や色、国際もしくは米国の表示タイプに対する文言などのマリンチャート情報を表示します。

安全を陰表示/セーフティーデプス

Navionicsチャートでは、異なる青色の陰影を使用して、浅瀬と深間を別します。

選択した限界に基づく安全水深は、陰影なしで描画されます。

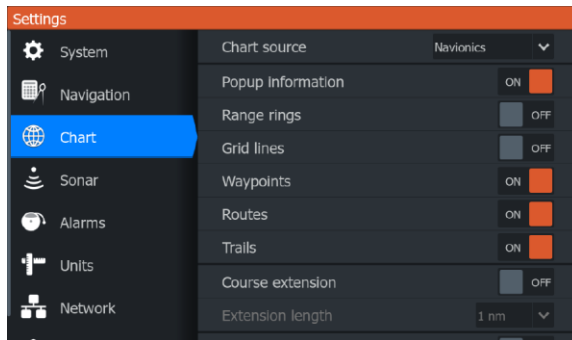
➡**注意**：組み込まれたNavionicsデータベースでは、20mまでのデータを備えており、それ以上はすべて白くなります。

チャートの詳細

異なるレベルの地理レイヤー情報を提供します。

チャートの設定

システムコントロールダイアログの設定ダイアログを選択し、チャート設定のダイアログにアクセスします。



チャートソース

チャートカードを挿し込むと、チャートのソースが変更します。

ポップアップ情報

項目を選んだ際に、パネル項目の基本情報を表示するかどうかを決めます。

レンジリング

ボートから他のパネルおぶじょくとまでの距離を表すために使用できます。

レンジ尺度はシステムによって自動的に設定され、パネル尺度と合わされます。

グリッドライン

パネル上の緯度経度の格子線表示をオンオフします。

ウェイポイント、ルート、航跡

パネル上のこれらの項目の表示をオンオフします。

コース延長ライン

パネル上の実航路軌跡(COG)延長線の表示をオンオフします。
COGは、GPSからの情報に基づいています。

延長線の長さ

コース延長オプションがオンになっている時、表示する線の長さを指定します。

ソナーチャートライブ潮汐補正

選択すると、潮汐補正機能が近隣の検潮所(利用可能の際)からの情報を拾い、ソナーが記録する際にソナーチャートライブが使用する水深値を調整します。

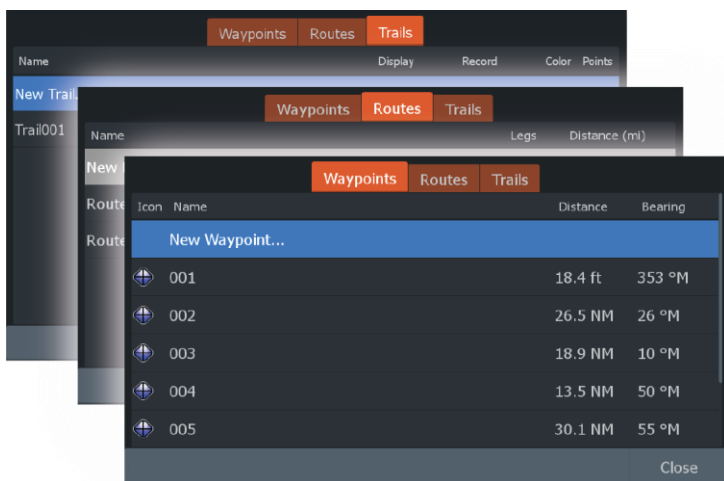
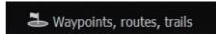
5

ウェイポイント・ルート・航跡

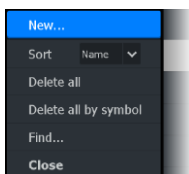
ダイアログ

ウェイポイント、ルート、航跡ダイアログから、高度な編集機能およびこれら項目の設定にアクセスできます。

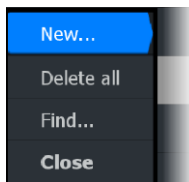
ダイアログは、ホームページのツールパネルからアクセスします。



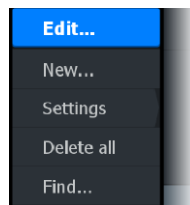
ダイアログ上のメニューアイコンを選んで、追加のオプションにアクセスします。



ウェイポイント
オプション



ルートオプション



航跡オプション

ウェイポイント

ウェイポイントは、チャートパネル上に位置を決めてユーザーがマークするポイントです。

各ウェイポイントは経度と緯度の正確な位置を有しています。ウェイポイントを使用して、後で戻る可能性のある位置をマークします。二つ以上のウェイポイントを組み合わせてルートを作成することも可能です。



ウェイポイントの保存

カーソル/ウェイポイントキーを長押しすると、新しいウェイポイントを保存できます。

- カーソルが無効のときは、ウェイポイントはボート位置に置かれます。
- カーソルが有効のときは、ウェイポイントはカーソル位置に置かれます。

ウェイポイントの移動

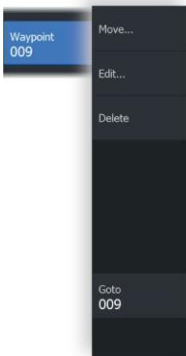
1. カーソル/ウェイポイントキーを押す。
2. カーソルを操作してウェイポイントの上に置く。
3. メニューを有効にし、メニュー内のウェイポイントを選ぶ。メニューが開き、移動オプションが表示される。
4. メニュー内の移動オプションを選ぶ。
5. 矢印キーを使ってウェイポイントを新しい位置に移動させる。
6. メニュー/エンターキーを押す。

新しい位置でウェイポイントが保存されます。

ウェイポイントの編集

ウェイポイントの編集ダイアログから、ウェイポイントに関するすべての情報を編集できます。

ダイアログは、ウェイポイント上にカーソルを移動し、メニュー内のウェイポイント、編集メニューのオプションを選ぶと有効になります。ダイアログは、ホームページのツールパネル上のウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることもアクセスできます。ウェイポイントタブを選び、編集したいウェイポイントを選びます。





ウェイポイントの削除

ウェイポイント編集ダイアログからウェイポイントを削除するか、またはウェイポイントが有効になっている時に削除メニューのオプションを選ぶことで削除できます。

ウェイポイント編集ダイアログは、ウェイポイント上にカーソルを移動し、メニュー内のウェイポイント、削除メニューのオプションを選ぶと有効になります。

ウェイポイント編集ダイアログは、ホームページのツールパネル上でウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることでアクセス可能です。ウェイポイントタブ、削除したいウェイポイント、削除のオプションを選択します。

同じ方法でMOBウェイポイントを削除可能です。

ウェイポイントアラームの設定

作成する個々のウェイポイントについて、アラーム範囲を設定できます。

アラームは、ウェイポイント編集ダイアログ内で設定します。

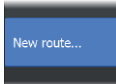
➡**注意**：ボートが定義した半径内に入った時にアラームを有効にするには、アラームダイアログ内のウェイポイント半径アラームをオンに切り替える必要があります。詳細については、P.67の「アラームダイアログ」を参照ください。



ルート

一連のルートポイントで構成されるルートは、ナビゲーションしたい順序で入力します。

パネル上でルートを選ぶと緑色に変わり、ルート名が表示されます。



ページ上での新しいルートの作成

1. メニューから新しいルートのオプションを選ぶ。
2. 矢印キーを使って、カーソルをパネル上の最初のルートポイントに移動する。
3. メニュー/エンターキーを押してルートポイントを作成する。
4. ステップ3と4を繰り返し、ルートが完成するまでパネル上に新しいルートポイントを位置決めし続ける。
5. 完成したら、イクジット(X) キーを押してルートを保存する。

パネルからのルートの編集

ルート上にカーソルを置き、メニュー内でルートを選ぶとルートの編集が可能です。メニュー内の編集オプションを選びます。編集ルートダイアログが開きます。

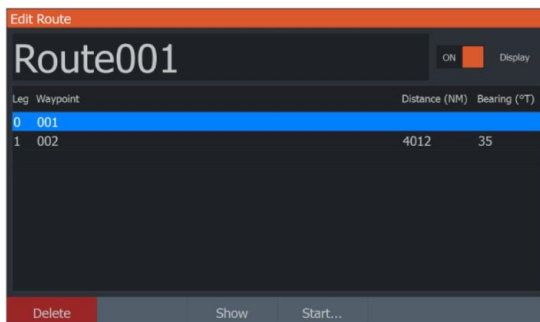
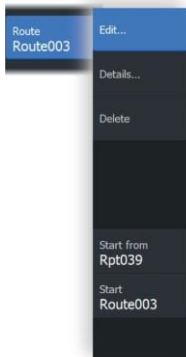
ダイアログは、ホームページのツールパネル上でウェイポイント、ルート、航跡ダイアログを有効にすることもアクセス可能です。ルートタブを選び、編集したいルートを選びます。

パネルからルートを編集するには：

1. パネル内のルート上でカーソルを操作します。ルートのポップアップが表示されます。
2. メニュー/エンターキーを押し、矢印キーを使用してメニュー内のルートを選びます。追加のオプションを含むメニューが開きます。

- 編集オプションによってパネル上でルートポイントの移動および削除が可能です。

- 詳細オプションで、ルートのオプション設定、名前の変更および詳細の管理が可能な、ルート編集ダイアログが開きます。



3. 矢印キーを使って使用したいオプションを選び、メニュー/エンターキーを押します。
4. プロンプトに従って変更、変更の保存を行います。

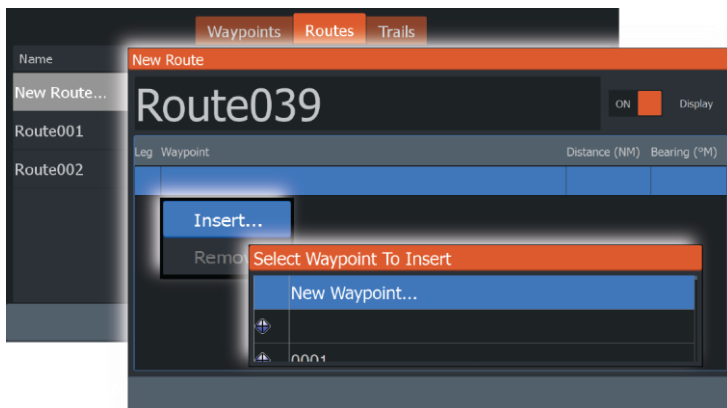
ルートの削除

ルート上にカーソルを置き、メニューのルートを選び、開いたメニューから削除オプションを選ぶと、ルートの削除ができます。ルートダイアログからルート削除することもできます。34ページの「ダイアログ」を参照してください

既存のウェイポイントを使用したルートの作成

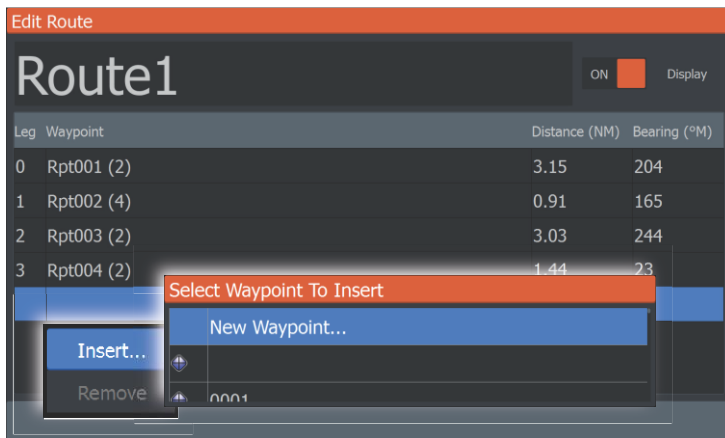
新しいルートダイアログから既存のウェイポイントを組み合わせることで新しいルートの作成が可能です。

ホームページ上でウェイポイント、ルート、航跡のツールを選んだ時に表示されるダイアログ内でルートタブを選ぶことで、ダイアログが有効になります。次に、新しいルートのオプションを選びます。



ルート編集ダイアログから、既存のルートに既存のウェイポイントを挿入することも可能です。

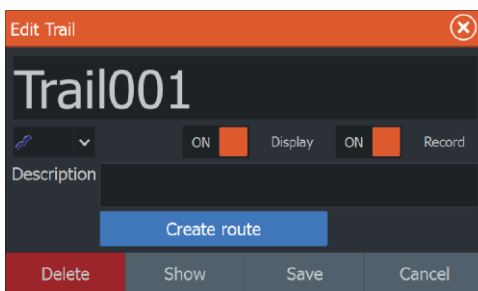
ルート編集ダイアログから、ウェイポイントを挿入したいリストのルートポイントを選び、メニュー/エンターキーを押します。



航跡からルートへの変換

航跡編集ダイアログから航跡をルートに変換できます。航跡を有効にし、航跡のポップアップもしくは航跡メニューのオプションを選ぶと、ダイアログが有効になります。

航跡編集ダイアログは、ホームページ上ウェイポイントツールを選ぶことでもアクセス可能です。



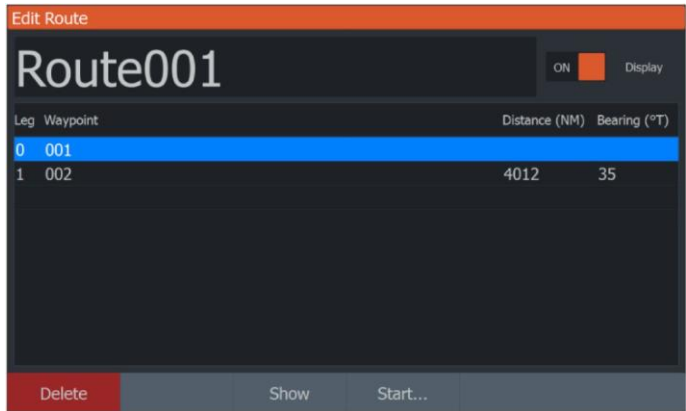
ルート編集ダイアログ

ルート編集ダイアログを使用して、ルートポイントの追加および削除、ルートのプロパティの変更が可能です。

ルート上にカーソルを置いてメニュー内でルートを選ぶとダイアログが有効になります。

ホームページのウェイポイント、ルート、航跡のツールを選んだ時に表示されるダイアログ内でルートタブを選ぶことでも、ダイアログにアクセス可能です。

名前を変更するには、名前のフィールドを選びます。ディスプレイをオンにして、パネル上でルートを表示します。



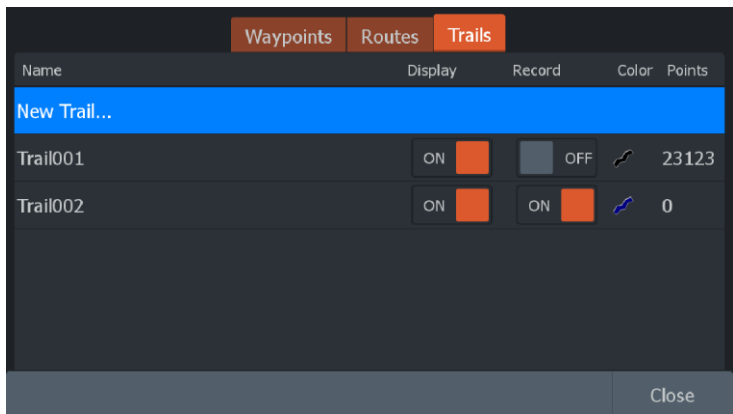
航跡



航跡はボートの履歴経路を図形として表したもので、どこをナビゲーションしたかを辿ることができます。

航跡編集ダイアログから、航跡をルートに変換可能です。

P.39の「航跡をルートに変換」を参照ください。



工場において、システムはパネル上のボートの動きを自動的に追跡、描画するように設定されています。システムは、長さが最大点数に達するまで航跡を記録し続け、その後自動的に最も古い点から上書きを開始します。

自動追跡機能（記録）は、航跡編集ダイアログでオフにすることが可能です。

新しい航跡の作成

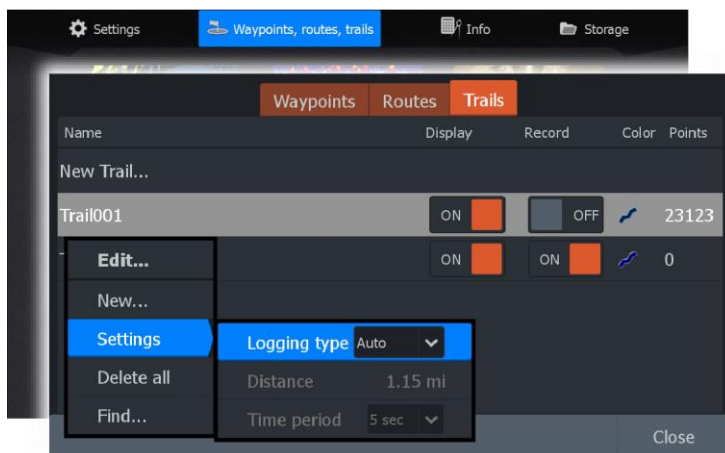
ホームページのウェイポイント、ルート、航跡ツールを使用し、航跡タブを選んで、航跡ダイアログから新しい航跡を開始することができます。

航跡の設定

航跡は、長さが記録の頻度に応じて決まる線分で結ばれた一連の点でできています。

時間設定、距離に基づいて航跡ポイントを位置決めするか、またはコースの変更を登録した時にシステムに航跡ポイントを自動的に位置決めさせるかを選ぶことが可能です。

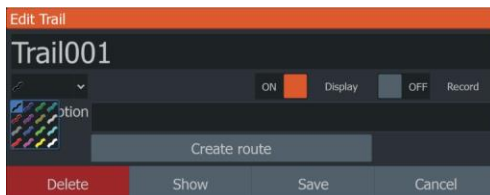
➔注意：航跡オプションをパネル設定ダイアログでオンにしないと、表示は出ません。



航跡のカラーリング

航跡に色を付けるには：

- 航跡ダイアログから航跡を選び、航跡編集ダイアログ内で航跡全体についての色を設定します。



6

ナビゲーション機能

ナビゲーション機能について

本システムが備えているナビゲーション機能で、カーソルの位置へ、ウェイポイントへ、またはあらかじめ設定したルートに沿って航行することが可能です。

ウェイポイントの位置決め、ルートの作成の詳細については、P.34の「ウェイポイント、ルート、航跡」を参照ください。

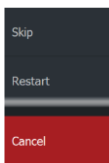
メニューオプション

メニューオプションを使用して：



- カーソル位置へ航行する。
- ウェイポイントへ航行する。
- ルートを航行する。

航行中は、メニューが開き以下のオプションを提供します：



- ルート航行時のウェイポイントのスキップ。
- カーソル、ウェイポイント、ルートへの航行を再開。
- カーソル、ウェイポイント、ルートへの航行を取消。

カーソル位置へのナビゲーション

チャート/GPSプロッターまたはソナーパネルのカーソル位置への航行を開始することが可能です。

パネル上で選択した目的地にカーソルを合わせ、メニュー内の Goto カーソルオプションを選びます。

➡**注意**：Go to カーソルメニューは、航行中は利用できません。

ウェイポイントへのナビゲーション

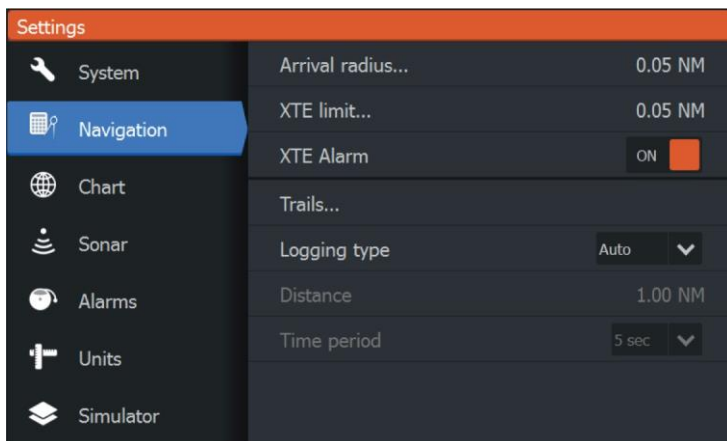
パネル上のウェイポイントへの航行を開始することが可能です。ウェイポイント上にカーソルを合わせ、メニュー内のウェイポイントから、Gotoウェイポイントオプションを選びます。

ルートのナビゲーション

カーソルをルート上に置き、メニュー内のルートからルート開始オプションを選択して、航行を開始することができます。

ルートの航行を開始したら、ナビゲーションメニューオプションを選んで航行の取消し、ウェイポイントのスキップ、現在のポート位置からのルートの再開を選びます。

ナビゲーションの設定



到達範囲

目的地のウェイポイントの周りに、見えない円を設定します。その範囲内に入ると、ボートはウェイポイントに到達したとみなします。

XTEリミット

選択したルートから逸れることが可能な距離を定め、ボートがこの限度を超えた時に、アラームが発せられます。

XTEアラーム (クロストラックエラー)

XTEアラーム(航跡交差エラー)

XTEアラームをオンオフします。

航跡

航跡の設定が調整できる航跡ダイアログを開くと、航跡は航行用のルートに変換されます。P.40の「航跡」を参照ください。

記録の種類

時間、距離に基づいて航跡ポイントを記録するか、またはコース変更を登録した時に本体にポイントを自動的に位置決めさせるかを選ぶことが可能です。

航法の設定ダイアログで以下のログの種類の中からひとつを指定します。

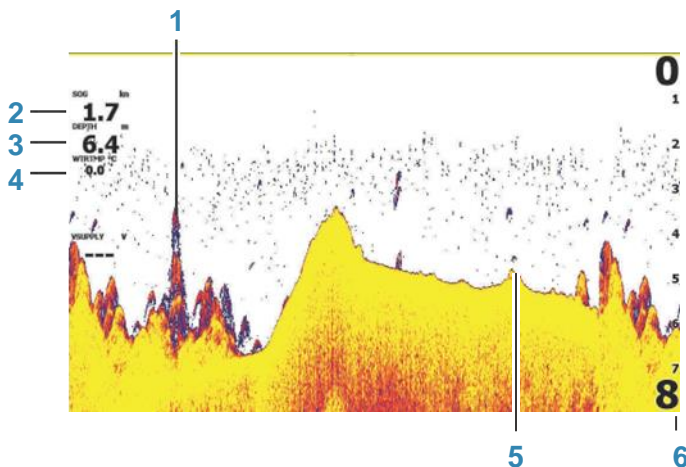
- オート- コース変更が登録されると、本体が自動的にポイントを位置決め。
- 距離- ディスタンスフィールドを選んで、記録したい距離を入力。
- 時間 - タイムフィールドを選んで、記録したい時間を入力。

7

ソナー

ソナー機能によってボート下の水中とボトムを見ることができ、魚群探知と水底調査が可能となります。

ソナー画像



- 1 フィッシュ
- 2 実速度*
- 3 水深*
- 4 水温*
- 5 ボトム
- 6 レンジ尺度

* 修正可能なオプションのソナーデータのオーバーレイ。
P.18の「データのオーバーレイ」を参照ください。

画像のズーム

ズームキーを使用して、画像のズームが可能です。
ズームレベルは、画像の左下に表示されます

カーソルを有効にせずにズームを行うと、海底はスクリーンの下の近くに保たれます。カーソルが有効の場合は、本体はカーソルで指した場所をズームします。

分割スクリーンで画像をズームし、ズームバーを表示できます。P.52の分割スクリーン「ズーム」を参照ください。

画像上でのカーソル使用

画像をカーソルで指すと、スクリーンは一時停止し、カーソル位置の水深が示され、情報ウィンドウと履歴バーが有効になります。

履歴の閲覧

画像のパニングにより、ソナー履歴を閲覧することができます。画像を左右に振るには、画像上でカーソルを移動します。この時、自動スクロールは停止します。

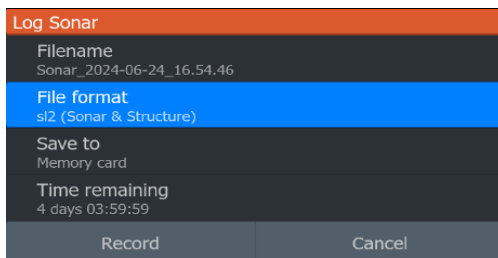
- 左の矢印キーを使用して、カーソルを画像の左端に移動させます。左の矢印キーを押し続けると、画像は左に進み、過去の画像を表示します。
- 同じように右の矢印キーを使用して画像を右へ進ませ、最新の画像を表示します。
- 通常のスクリールに戻すには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消します。



ソナーログデータの記録開始

ソナーログデータの記録を開始し、ファイルを本体内部に保存するか、または本体のカードリーダーに挿入したカードに保存することができます。

ログソナーダイアログは、システムコントロールまたはソナー設定ダイアログから有効にします。



データが記録されると、左上角に赤い記号が点滅し、スクリーンの下に定期的にメッセージが表示されます。

ファイル名

記録 (ログ) の名前を指定します。

ファイルのフォーマット

ドロップダウンから、slg (ソナーのみ)、xtf (ストラクチャーのみ*)またはsl2 (ソナーおよびストラクチャー) のファイルフォーマットを選びます。

➔**注意** : xtfフォーマットは、サードパーティー製のソナーツールを選んだ場合にのみ使用します。

保存するには

本体内部に記録するか、本体に接続している保存デバイスに記録するかを選びます。

残り時間

記録できる、割り当てられた容量の残りを示します。



ソナーログデータの記録停止

システムコントロールダイアログ内で記録停止を選び、次にログソナーダイアログ内のストップを選んで、すべてのソナーログデータについての記録を停止させます。

Logging Sonar	
Filename	Sonar0001.sl2
Time remaining	12:11:14
Time elapsed	0:00:05
File size	397.9 kB
Stop Close	

記録した音響データの閲覧

内部、外部の両方の保存音響記録は、ソナー設定ダイアログ内でソナーログの閲覧オプションを選んで見直すことが可能です。P.53の「ソナーの設定」を参照ください。



画像設定のカスタマイズ

本体は初期設定ではオートモードに設定されており、ほとんどの設定は自動化されています。画像をカスタマイズするためのカスタマイズ設定は、熟練したソナーのユーザーのみが使用することを推奨します。

メニュー内でオートを選び、カスタムもしくはアイスフィッシングモードに変更して画像の設定をカスタム化します。

メニュー内のその他のオプションを使用して、画像に対するアクセスの追加オプションを設定します。P.51ページの「その他のオプション」を参照ください。

カスタム・アイスフィッシングモードオプション

カスタムおよびアイスフィッシングモードによって、手動でソナー調整するためのコントロールにアクセスできます。

▶注意：下記のオプションはカスタムまたはアイスフィッシングモードでのみ利用可能です。

レンジ

レンジの設定でスクリーン上で見える水深を決定します。

感度

感度を上げるとスクリーン内でより多くの詳細が示されます。感度を下げると表示が少なくなります。詳細が多すぎると、スクリーンにノイズが入ります。

逆に、感度を下げ過ぎると希望のエコーが表示されない可能性があります。

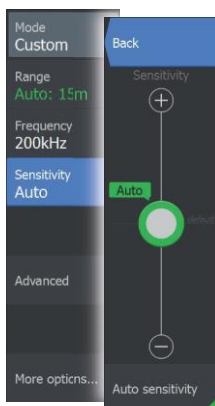
▶注意：ほとんどの場合、自動感度が適当なモードとなっています。

自動感度

自動感度では、ソナーを最適なレベルに調整します。自動感度の機能を維持しながら、好みに合わせて(+/-)で調整が可能です。

感度の調整

1. 自動感度のメニューオプションを選んで、自動設定をオフにします。
2. 矢印キーを使用して、スクロールバーのメニューオプションをハイライトします。
3. メニュー/エンターキーを押して有効にします。



4. 矢印キーを使用して調整します。
5. メニュー/エンターキーを押して設定を決定します。
6. イクジット(X) キーを押してメニューを閉じます。



高度なオプション

発射速度

トランスデューサーが水中に信号を送信する速度を制御します。初期設定では、最高速度になっており、干渉を制限するために速度の調整が必要となることがあります。

スクロールスピード

スクリーン上の画像のスクロール速度を選ぶことができます。スクロール速度が高いと画像が早く更新され、スクロール速度が低いと長い履歴を表わします。

→注意：状態によっては、スクロール速度を調整してより有用な画像を得ることが必要となります。たとえば、移動せずに垂直に釣りをを行う際は、画像を高速に調整します。

ノイズ除去

排水ポンプ、エンジンの振動および気泡などからの干渉で画像にノイズが乗る可能性があります。

ノイズ除去オプションは、信号の干渉にフィルターを掛け、スクリーン上のノイズを減らします。

水面の透明さ

波の動き、ボートの航跡および温度逆転は、水面近くでスクリーンのノイズの原因となり得ます。水面透明化のオプションは、水面近くで受信機の感度を下げて水面のノイズを減らします。

カラーライン

ディスプレイの色を調整して、ユーザーがコントラストの強いターゲットから弱いものを区別する役に立ちます。カラーラインを調整すると、ボトム上またはその近隣の魚や重要な物体を、実際のボトムから区別するのに役立ちます。

上下の矢印キーを使って、スクロールバーを調整します。

ボトムロック

ボトムロックモードは、水底に近い目標を見る際に便利です。このモードでは、パネルの左側にボトムが平坦である画像が表示されます。レンジ尺度が変化し、ボトム (0) から上向きに測定します。レンジ尺度から独立して、ボトムとゼロラインが左側の画像上に常時示されます。

パネル左側の画像の尺度倍率は、ズームオプションについての記載通りに調整されます。

フラッシャー

フラッシャーモードでは、点滅式のソナービューを左側のパネルに示し、通常のソナービューを右側のパネルに示します。

振幅スコープ

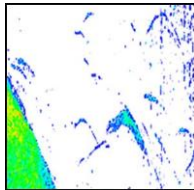
振幅スコープは、パネル上のエコーサウンディングディスプレイです。実際のエコーの強度は振幅および色合いの濃さで示されます。

パレット

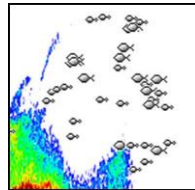
幾つかのディスプレイパレットの中から選ぶことが可能です。

フィッシュID

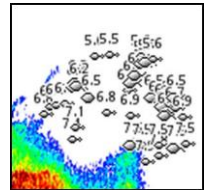
スクリーン上に表わす魚群を選ぶことが可能です。フィッシュIDがパネル上に現われた時にビーブ音で通知を受けたい場合に選択することも可能です。



従来の魚群アーチ



魚群記号



魚群希望と水深表示

➡**注意**：魚群記号のすべてが実際の魚群というわけではありません。

フィッシュIDビーブ音

魚群が特定されるとビーブ音が鳴ります。

オーバーレイダウンスキャン

ダウンスキャン対応のトランスデューサーをシステム接続した時は、通常のソナー画像上にダウンスキャン画像を重ねることができます。ダウンスキャンのオーバーレイを有効にした時は、ソナーパネルメニューが開き、基本的なダウンスキャンのオプションが表示されます。

距離の測定

カーソルを使用して、画像上の2カ所の観測点位置の間の距離を測定可能です。

1. 距離を測定する起点となるポイント上にカーソルを置きます。
2. 2つ目の測定点にカーソルを置きます。

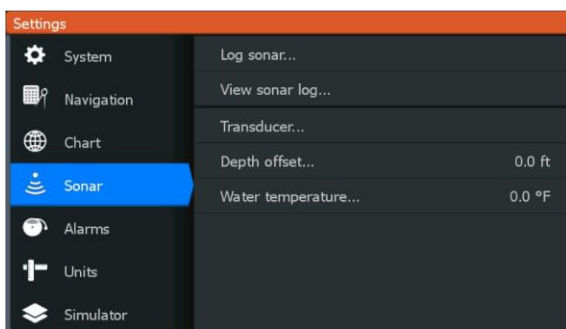
- カーソルポイント間に線が描画され、距離がカーソル情報ウィンドウ内に一覧表示されます。

3. 必要な場合は、新しい測定ポイントを選び続けます。

測定機能が有効である限り、メニューを使って始点と終点を再度位置決めすることが可能です。

測定終了を選ぶか、またはイクジット(X)キーを押すと測定機能が停止します。カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消去し、画像は通常のスクロールに戻ります。

ソナーの設定



ソナーの記録

ソナーデータの記録の開始、停止のために選びます。詳細については、P.47の「ソナーログデータの記録開始」を参照ください。

ソナー記録の閲覧

ソナーの記録を閲覧するために使用します。

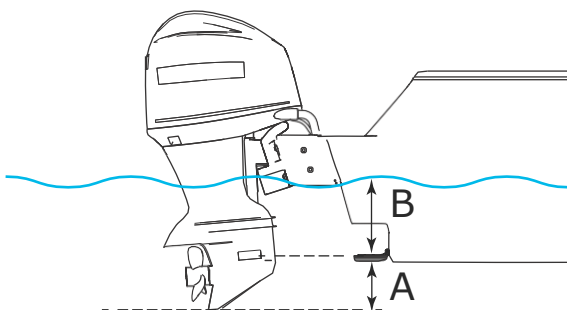
一時停止した画像としてログファイルが表示されます。コントロールメニューオプションから、スクロールと表示をコントロールします。リプレイ画像上でカーソルを使用して、通常のソナー画像と同じように画像を振ることが可能です。

イクジット(X) キーを押して閲覧機能を終了します。

水深のオフセット

すべてのトランスデューサーは、トランスデューサーから水底までの水深を測定します。結果として、水深の読み取り値は、トランスデューサーから水中の船の最も低い点（例、キールの底、舵またはスケグ）までの距離、またはトランスデューサーから水面までの距離とは無関係となります。

オフセットの設定前に、トランスデューサーから水中の船の最も低い点、またはトランスデューサーから水面までの距離を測定します。



- A. 船の最低点のオフセット：トランスデューサーから水中の船の最も低い点までの距離を設定します。これは負の値として設定されます。例、 -0.3 m (-1 ft)
- B. 水面下 (喫水線) の水深オフセット：トランスデューサーから水面までの距離を設定します。これは正の値として設定されます。例、 $+0.5\text{ m}$ ($+1.77\text{ ft}$)

トランスデューサーから下の水深は、オフセットを 0 に設定します。

水温のキャリブレーション

水温の較正を使ってソナートランスデューサーから水温値を調整します。測定した温度に対する局地的な影響を補正するために必要となることがあります。

較正レンジ：-9.9° - +9.9°、初期設定は0°です。

→注意：水温の較正は、トランスデューサーが温度能力がある場合のみに表示されます。このオプションが利用可能かどうかについては、トランスデューサーの種類選択を確認してください。

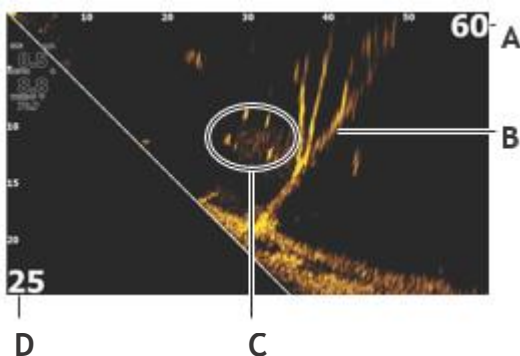
8

ライブソナー

ライブソナーについて

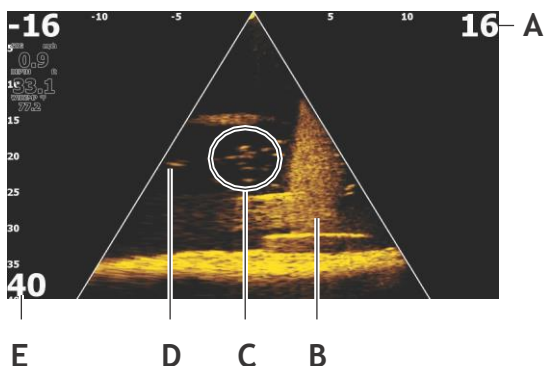
ライブソナーは、船の下をリアルタイムで表示する機能です。ストラクチャーや、魚がルアーにどのように反応するかをライブ映像で見る事ができます。

ライブソナー フォワードパネル



- A. 距離のレンジスケール(振動子からの距離)
- B. 魚が泳いでいる水中の木
- C. 魚
- D. 下方のレンジスケール(振動子の下方距離)

ライブソナー ダウンパネル



- A. 距離のレンジスケール (振動子からの距離)
- B. 水面下のストラクチャーにつく魚群
- C. 魚群
- D. 一匹の大きい魚
- E. 下方のレンジスケール (振動子の下方距離)

画像を拡大/縮小する

パネルのズームオプションを使って画像を拡大/縮小できます。

カーソルがアクティブの場合は、カーソル位置を中心として拡大されます。

パネル上でのカーソル使用

初期状態では、画像上にカーソルは表示されていません。

パネル上にカーソルを置くと、画像が一時停止し、カーソル情報ウィンドウが起動します。カーソル位置には、その位置の水深およびレンジが表示されます。

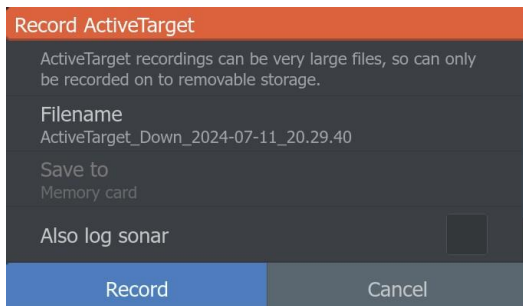
ライブソナー動画の録画する



アクティブターゲット動画をメモリーカードに録画できます。

アクティブターゲットの録画はすべて標準の.mp4形式で行われるため、パソコンでの再生やインターネットでの共有に最適です。

→ **注記**： このオプションは、メモリーカードが挿入されている場合のみ使用できます。



録画の停止



録画中は、メニューに[録画の停止]が表示されます。

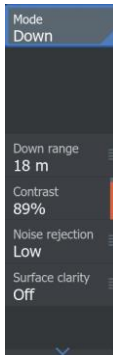
各種モードと画像設定

本機には画像設定用の各種カスタマイズモードがあらかじめ用意されています

モードの変更



モードボタンを押してから、使用したいモードを選択します。[ダウン]、[フォワード]、[スカウト]のいずれかのモードを選択すると、メニューが展開し、選択したモードの各項目が表示されます。どのモードにも[追加のオプション]があり、追加の画像設定を行えます。



ダウンモードメニュー



フォワードモードメニュー

自動モード

初期状態では、本機は自動モードに設定されています。このモードでは、ほとんどの項目が自動で設定されます。

フォワードレンジ

フォワードレンジ設定により、画像に表示される距離が決まります。

→ **注記**：この項目は、フォワードモードでのみ使用できます。

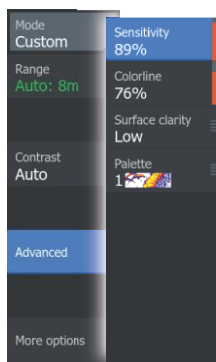
ダウンレンジ

ダウンレンジ設定により、画像に表示される水深が決まります。

ノイズ抑制

信号の干渉を除去し、画面上のクラッターを低減します。

追加のオプション



パレット

画像のカラーパレットの選択に使用します。

レンジグリッドライン

レンジグリッドを画像に追加できます。グリッドラインは、ターゲットまでの距離を判断するのに便利です。このメニュー項目を選択すると、グリッドなし、直線グリッド、または円弧グリッドを選択できます。

ステーブルビュー/ビューの安定性

選択すると、振動子がボートと振動子の動きを差し引いて処理するためパネル上の画像の安定性が向上します。

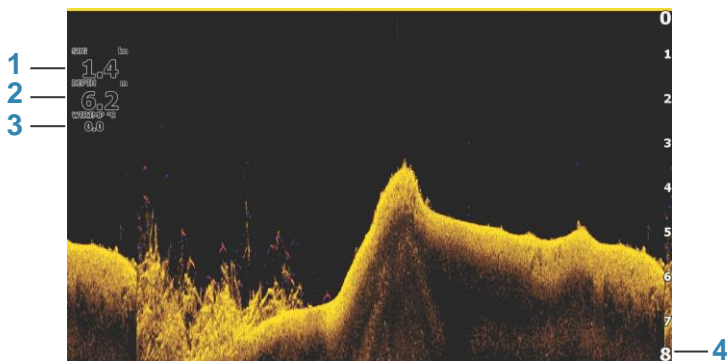
9

ダウンスキャン

ダウンスキャンについて

ダウンスキャンは、ボートの真下の状態と魚群の画像を提供します。ダウンスキャンパネルは、ダウンスキャン対応のトランスデューサーが接続されている時に利用可能です。

ダウンスキャンパネル



- 1 実速度
- 2 水深
- 3 水温
- 4 周波数
- 5 レンジ尺度

ダウンスキャン画像のズーム

ズームキーを使って、ダウンスキャン画像のズームが可能です。

ダウンスキャンパネル上でのカーソル使用

初期設定では、カーソルはダウンスキャンパネル画像上に表示されません。画像上にカーソルを出すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。ダウンスキャン画像にカーソルを置くと、スクリーンが一時的に停止し、カーソル情報ウィンドウが有効になります。ボートからカーソルまでの距離はカーソル情報ウィンドウの下欄に表示されます。

カーソルの水深は、カーソル位置の左に表示されます。
パネルからカーソルとカーソルのエレメントを消すには、カーソル/ウェイポイントキーを押します。

Goto カーソル

カーソルをパネル上に置き、メニューのGotoカーソルオプションを使用して、画像上の選択された位置に航行することが可能です。

ダウンスキャン履歴の閲覧

画像をパニングすることで、ダウンスキャンの履歴を閲覧することができます。画像をパニングするには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像にカーソルを置きます。この時、自動スクロールは停止します。

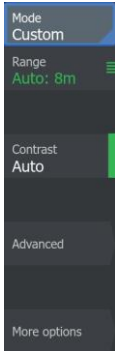
- 左の矢印キーを使って、カーソルを画像の左端に移動させます。左の矢印キーを押し続けて、画像を左に進ませると、履歴画像が見えます。
- 同じように右の矢印キーを使用して画像を右へ進めると、最新画像を表示します。
- 通常のスクリールに戻すには、カーソル/ウェイポイントキーを押して画像からカーソルを消します。

ダウンスキャンデータの記録

ダウンスキャンデータは、記録ダイアログから正しいファイルフォーマットを選ぶことで記録することができます。P.47の「ソナーデータ記録の開始」を参照ください。

画像設定のカスタマイズ

本体は初期設定ではオートモードに設定されており、ほとんどの設定は自動化されています。ソナー画像をカスタマイズするには、経験豊富なソナーユーザーのみが使用することを推奨します。メニューで「オート」を選択し、カスタムモードに変更して画像の設定をカスタマイズします。オートモードとカスタムモードには追加のオプションがあります。詳細については、P.65の「その他のオプション」を参照ください。カーソルがアクティブな場合、メニューのいくつかのオプションはカーソルモードの機能に置き換えられます。イーグルキーを押すことで、画像とカーソルメニューオプションからカーソルを除去できます。



カスタムモードのオプション

カスタムモードが選択されると、メニューが展開されてより多くのオプションが表示されます。これらのメニューオプションを使用して画像をカスタマイズします。

レンジ

レンジ設定は、画像に表示される水深を決定します。

オートレンジ

デフォルトでは、レンジはオートに設定されています。オートでは、システムが水面から底までの全範囲を自動的に表示します。

プリセットレンジレベル

水深に関連付けられていない特定の深さ範囲を選択することができます。

モードのデフォルトを復元

このメニューオプションは、1つ以上の設定をカスタマイズした場合に利用可能です。選択すると、すべてのカスタマイズ設定がデフォルト設定に戻ります。

コントラスト

画面の明るい部分と暗い部分の明るさの比率を決定します。

➡**注意**：オートコントラストの使用を推奨します。

コントラスト設定を調整するには：

1. メニューでコントラストオプションを選択します。
2. オートコントラストを選択し、Enterキーを押してオートコントラストをオフにします。
3. 矢印キーを使用して調整バーをハイライトし、Enterキーを押してアクティブにします。
4. 矢印キーを使用して設定を調整します。
5. Enterキーを押して設定を保存します。

フィッシュリビール

フィッシュリビールを選択すると、画像に魚のアーチが表示されます。

フィッシュリビールを有効にすると、メニューが開き、フィッシュリビールのオプションが表示されます。

感度

FishRevealデータの感度を制御します。感度を上げると、画面上により多くの詳細が表示されます。感度を下げると、表示される詳細が少なくなります。詳細が多すぎると画面が混雑します。感度が低すぎると、弱い魚のアーチデータが表示されないことがあります。



カラライン

魚のアーチデータの色を調整し、他のターゲットと区別できるようにします。カララインを調整することで、魚や底近くの重要な構造物を実際の底から分離しやすくなります。

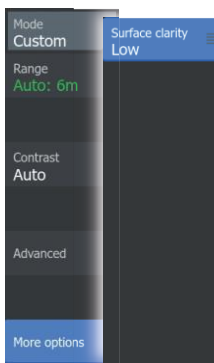
表面の明瞭さ

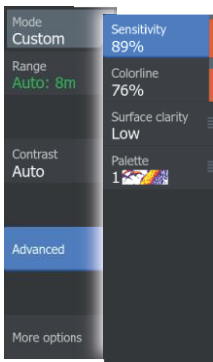
波の動き、ボートの波紋、温度逆転によって表面近くに画面の混雑が生じることがあります。このオプションは、受信機の感度を減少させることで、FishRevealデータの表面の混雑を軽減します。

パレット

さまざまな釣り条件に最適化された複数の表示パレットの中から選択します。

→注意:パレットの選択はユーザーの好みによることが多く、釣り条件によって異なる場合があります。画像の詳細とFishRevealアーチとのコントラストが良好なパレットを選択するのが最良です。





高度なオプション

表面の明瞭さ波の動き、ボートの波紋、温度逆転によって表面近くに画面の混雑が生じることがあります。表面の明瞭さオプションは、受信機の感度を減少させることで表面の混雑を軽減します。

その他のオプション

レンジラインレンジラインを画像に自動することで、深さを推定しやすくなります。

パレット

複数の表示パレットの中から選択できます。

距離の測定

カーソルを使用して、画像上の2つの観測位置間の距離を測定できます。

1. 測定を開始したいポイントにカーソルを置きます。
2. 2番目の測定ポイントにカーソルを置きます。
-測定ポイント間に線が引かれ、カーソル情報ウィンドウに距離が表示されます。
3. 必要に応じて新しい測定ポイントを選択し続けることができます。

測定機能がアクティブな限り、メニューを使用して開始点と終了点を再配置できます。「測定終了」を選択するか、Exit (X)キーを押すと測定機能が停止します。再度Exitキーを押すと、カーソルが画像から除去され、画像は通常のスクロールに戻ります。

10

アラーム

アラームシステム

システムは、システム実行中の危険な状況およびシステム不良を継続的に確認します。アラームが必要な状況が発生した時は、アラームメッセージがスクリーン上にポップアップで表示されます。

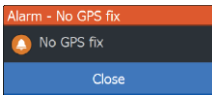
サイレンを有効にすると、アラーム音が聞こえ、その後にアラームメッセージが続きます。

アラームはアラーム一覧に記録され、詳細を見て適当な是正措置を執ることができます。

メッセージの種類

メッセージは、報告される状況がポートに及ぼす影響に応じて分類されます。以下のカラーコードを使用します：

色	重要度
赤	危機的な警告
オレンジ	重要な警告
黄色	標準的な警告
青	警告
緑	軽微な警告



アラームメッセージ

アラームメッセージは、アラーム名、アラームの詳細と共に表示されます。

メッセージの確認

メッセージ確認のアラームダイアログオプションはアラームに応じて変わります：

- 閉じる/クローズ

アラーム状態を確認済みと設定します。サイレン/ブザーが止み、アラームダイアログが消えます。

ただし、アラームの原因が解消するまではアラームはアラーム一覧内に残ります。

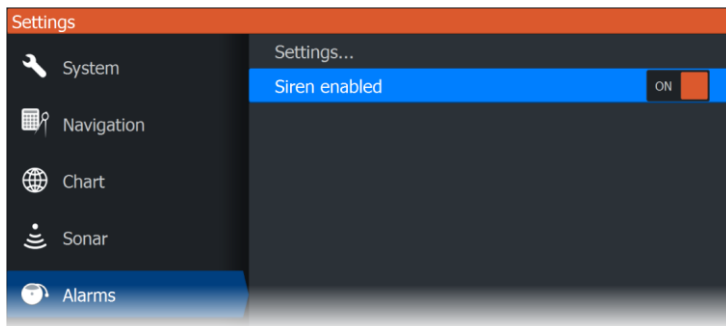
- 無効

現在のアラーム設定を無効にします。アラーム設定ダイアログ内に戻さない限り、アラームは再表示されません。

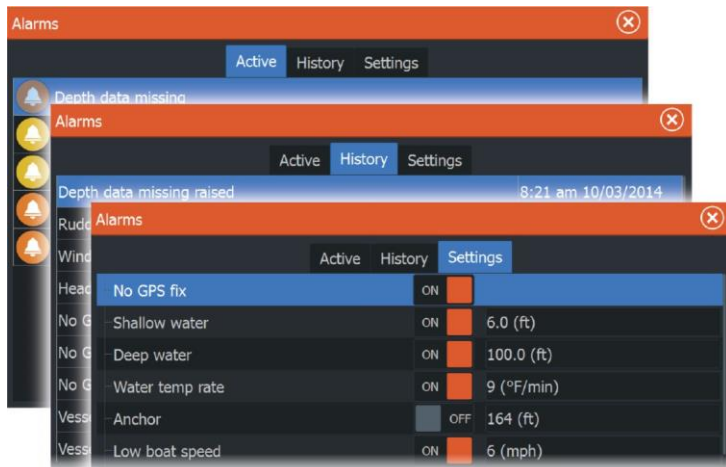
メッセージやサイレンには一時中止ありません。確認済みとなるか、メッセージの原因が解消されるまでは有効のままとなります。

アラームのダイアログ

アラームダイアログからアラームサイレンを有効にします。



この設定オプションを選んで、アラーム設定ダイアログを開きます。アラーム設定ダイアログ内ですべてのアラームをセットアップします。



11

ツール

ツールパネルには、オプションにアクセスするためのアイコンと、パネルを特定しないツールが含まれています。

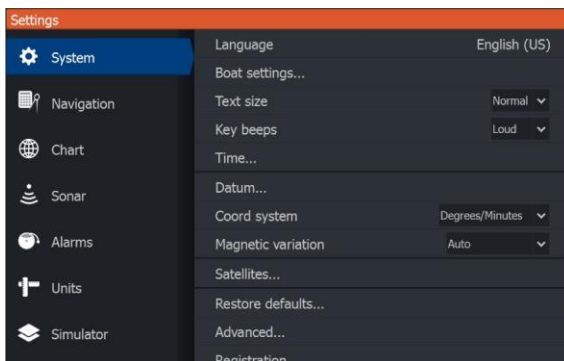
ツールパネルは、ホームにあります。



設定

アプリケーションとシステムの設定にアクセスできます。

システムの設定



システムの設定で、以下のオプションにアクセスできます。

言語

パネル、メニューおよびダイアログについて、本体で使用されている言語をコントロールします。言語を変更すると、本体は再起動します。

ボートの設定

ボートの物理的な属性を指定します。

テキストサイズ

メニューおよびダイアログの文字サイズを設定します。

キーのビープ音

キーを押したときのビープ音の大きさを制御します。

時間

地域の時間帯の補正および日時の書式を制御します。

データム

ほとんどのペーパーチャートはWGS84フォーマットで作成されています。お使いのペーパーチャートが異なるフォーマットの場合は、それに応じてデータムの設定を変更することが可能です。

座標系

いくつかの座標系を使用して、パネル上に表示される緯度経度の座標のフォーマットを制御することが可能です。

磁気変位

磁気変位は、地理北極点と磁気北極点の位置の違いに起因する、真方位と磁方位の差です。鉄鉱石などの地域的な特異性も磁方位に影響を及ぼします。

オートに設定すると、システムは自動的に磁方位の北を真方位の北に変換します。自身で地域の磁気変位を入力する必要がある場合は手動モードを選びます。

サテライト

有効な緯度の状態ページです。

初期設定の復元

元の工場設定時に復元する設定を選ぶことが可能です。

▲ 警告: ウェイポイント、ルート、航跡を選ぶと、完全に削除されます。

アドバンス

より詳細な設定のあるパネルを表示します。様々なユーザーインターフェース情報を表示する方法を設定します。さらに、インターフェース内にどの機能を表示するかを制御します。

登録

デバイスの登録を促します。登録は以下で可能です。

- インターネットアクセスしているスマートデバイスから
- OUTBREAKのLOWRANCEウェブサイトから

アバウト

本ユニットの著作権情報、ソフトウェアのバージョンおよび技術情報を表示します。

サポートオプションはサービスのアシスタンスにアクセスします。詳細については、P.77の「サービスのアシスタント」を参照ください。

航法

到着時間、XTE limit、XTEアラーム、航跡およびログタイプなど航法についての設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。P.44の「ナビゲーションの設定」を参照ください。

チャート

お使いのチャートの設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。チャート設定ページで行う設定および表示オプションはすべてのチャートパネル内で共通です。P.32の「チャートの設定」を参照ください。

ソナー

お使いのソナーの設定を指定する場合のオプションとダイアログを提供します。P.54の「ソナーの設定」を参照ください。

アラーム

サイレンを有効にするオプションを提供します。項目についてのアラーム音を指定するダイアログも提供し、有効なアラーム情報およびアラーム履歴を含みます。P.72の「アラームのダイアログ」を参照ください。

単位

様々なデータタイプで使用される測定単位を設定します。.

ネットワーク

表示装置とトランスデューサー間のネットワークデータに関する情報とオプションを提供します。

シミュレーター

シミュレーターを手動で制御します。詳細については、P.78の「シミュレーター」を参照ください。

ウェイポイント・ルート・航跡

ウェイポイント、ルート、航跡の、詳細を含む一覧。詳細については、P.34の「ウェイポイント、ルート、航跡」を参照ください。

インフォメーション

太陽/月、潮汐および航行情報にアクセスします。

太陽、月

入力したデータに基づいた位置および位置の緯度/経度についての日の出、日の入り、月の出および月の入りを表示します。

潮汐

ボートから最寄りの検潮所についての潮の情報を表示します。

使用可能な検潮所は検潮所フィールドから選択することが可能です。データを変更するには、矢印キーを使ってデータフィールドにアクセスし、メニュー/エンターキーを押して暦機能にアクセスします。

トリップ

航行情報を提供します。航行情報をリセットします。

ストレージ

ファイル管理システムにアクセスします。本体内部のメモリーおよび本体に接続している保存デバイスの内容の閲覧および管理に使用します。

ストレージデバイスへのファイルコピー

スクリーンショット、ログなどのユーザーデータを、本体に接続しているストレージデバイスにコピーすることも可能です。システム設定、ウェイポイント、ルートおよび航跡などのユーザーデータを保存デバイスにコピーすることが可能です。エクスポートするファイルは、P.77の「メンテナンス」のセクションを参照ください。

エクスポートするファイルは、P.77の「メンテナンス」のセクションを参照ください。

12

メンテナンス

予防メンテナンス

本体には、現地で整備できるコンポーネントは一切ありません。したがって、オペレーターが実施できるのは極めて限られた予防的なメンテナンスのみです。

本体を使用しない時は、常に日除け用のサンカバーを取付けることをお勧めします。

→注意：サンカバーは別売りです。カバーに付属の取付ガイドを参照ください。

ディスプレイユニットのクリーニング

スクリーンのクリーニング方法：

- ・きめ細かい布または柔らかい綿の布を使ってスクリーンを清掃してください。残った塩分は清水を軽く吹き付け、乾いたきめ細かい布または柔らかい綿の布で、ユニットを拭きます。濡らした布を使うと、結晶化した塩分、砂、汚れなどが保護コーティングを傷つけることがあります。布を押し付けしないでください。

ハウジングのクリーニング方法：

- ・液体食器洗い洗剤または合成洗剤を少量混ぜた温水を使用してください。

研磨剤入り洗浄製品や溶剤入りの製品（アセトン、鉱物テレピン油など）、酸、アンモニア、アルコールなどは、ディスプレイおよびプラスチックのハウジングを傷つけるため、使用しないでください。

- ・噴射や高圧洗浄を行わないでください。カーウォッシュにかけないでください。

コネクターのチェック

コネクタープラグをコネクターに押し込みます。コネクタープラグがロックやポジションキーを備えている場合は、正しい位置にあることを確認します。

サービスアシスタント

システムには、ソフトウェアのバージョン、シリアル番号、および設定ファイルからの情報を含む本体レポートを作成して

技術サポートの調査に役立つ、サービスアシスタントが組み込まれています。

1. 本体に空のメモリーカードを挿入する。
2. システム設定ダイアログの>Aboutページを開く。
3. サポートを選び、レポート作成を選ぶ。
4. 指示に従う。
5. メモリーカードにレポートを保存する。

スクリーンショットおよびログファイルをレポートに添付して追加することが可能です。レポートの添付ファイルの制限は20MBです。まず技術サポートに電話する場合は、ケース番号を入力し、その追跡でサポートを受けることができます。メモリーカードからレポートをメールし、インターネット接続したスマートデバイスやPCを使ってサポートします。

ソフトウェアのアップデート

ユニットのアップデートを始める前に、必ず貴重なユーザーデータをすべてバックアップしてください。

ソフトウェアのアップデート

➡**注意：** マッピングカードにはソフトウェアのアップデートをダウンロードしないでください。ソフトウェアのアップデート、レポートやファイルが保存できる十分な容量のある、マッピングのされていないメモリーカードを使用してください。

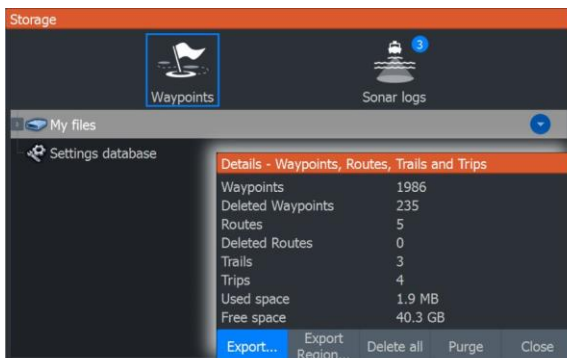
➡**注意：** アップデートが完了するまで本体をオフにしないでください。

1. www.lowrance.comから、インターネットに接続したPCやスマートデバイスに挿入したメモリーカードにソフトウェアのアップデートをダウンロードしてください。
2. 本体の電源をオフにし、その後ソフトウェアのアップデートを入れたカードを本体に挿入します。
3. 本体の電源をオンにします。進捗バーが現われて、アップデート中のソフトウェアを表示します。アップデートを完了させ、本体の電源はオフにしないでください。本体が再起動済みとなるまで、カードを取外さないでください。

システムデータのバックアップ

定期バックアップの一環として、ユーザーデータおよびシステム設定のデータベースを定期的にコピーすることをお勧めします。

すべてのウェイポイント、ルート、航跡のエクスポート
システム内のウェイポイント、ルート、航跡バックアップには、エクスポートのオプションを使用します。



リージョンのエクスポート

リージョンのエクスポートオプションによって、データをエクスポートするエリアを選択します。

1. リージョンのエクスポートを選ぶ。
2. 境界枠の角にカーソルを置き、メニュー/エンターキーを押して選択する。
3. 矢印キーを使って、選んだ境界枠の角を動かして枠を広げる。
4. メニュー/エンターキーを押し、角に置く。
5. 必要に応じて、ステップ2~3を他の境界枠の角でステップ2~4を繰り返す。
6. イクジット(X) キーを押して、エクスポートしたいリージョンが枠で覆われていることを示す。エクスポートリージョンダイアログが開く。
7. エクスポートオプションを選ぶ。
8. 適当なファイルフォーマットを選ぶ。
9. エクスポートを選んで、画面指示に従ってエクスポート先のフォルダーとファイル名を指定する。

エクスポートフォーマット

エクスポートには以下のフォーマットが使用可能です：

• ユーザーファイルデータバージョン6

ウェイポイント、ルートおよび色付きの軌跡/航跡のエクスポートに使用します。

• ユーザーファイルデータバージョン5

標準化された汎用固有識別子 (UUID) 付きのウェイポイントおよびルートのエクスポートに使用します。極めて信頼性が高く使いやすいものです。データにはルートが作成された日時などの情報を含んでいます。

• ユーザーファイルデータバージョン4

項目についてシステムが保存しているすべての余分な情報も含んでいるため、システム間のデータの転送に最適です。

• ユーザーファイルデータバージョン3 (水深あり)

システムから旧製品にユーザーデータを転送する際に使用してください。

• ユーザーファイルデータバージョン2(水深なし)

システムから旧製品にユーザーデータを転送する際に使用可能です。

• GPX (GPS Exchange, 水深なし)

ほとんどのGPSシステムを共有している、ウェブ上で使われているフォーマットです。他社のユニットにデータを取る場合にこのフォーマットを使用してください。

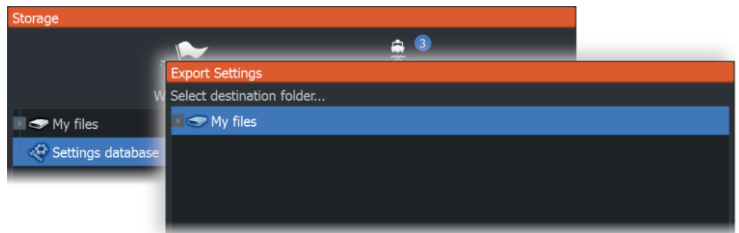
ユーザーデータの完全消去

データを完全消去するまでは、消去したユーザーデータは本体のメモリー内に保存されています。未完全消去データが大量にあり、それを完全消去することでシステムの性能が向上することがあります。

➡**注意：**ユーザーデータは削除され、メモリーから完全削除されると、回復は不可能です。

設定データベースのエクスポート

保存ダイアログ内のデータベースオプションの設定を使用して、ユーザー設定をエクスポートします。



バックアップファイルのインポート

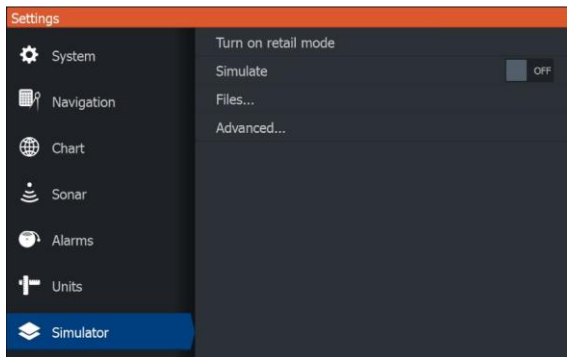
1. バックアップファイルを含んだメモリーカードを本体のカードリーダーに挿入する。
2. ツールパネルからストレージダイアログを開いてメモリーカードを選ぶ。
3. インポートしたいファイルを探して選ぶ。詳細なダイアログが開く。
4. インポートのオプションを選んで、画面指示に従う。

インポートが完了するとメッセージが出ます。

13

シミュレーター

シミュレーター機能によって、他のデバイスに接続せずに、静止位置でユニットの作動を見ることができます。
設定ツールからシミュレーターにアクセスします。



リテールモード

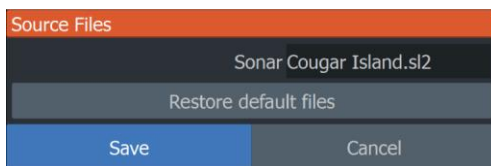
このモードでは、選択したリージョンについてのリテールのデモが表示されます。

リテールモード時に本体を操作するとデモは中断します。
タイムアウトが過ぎると、リテールモードが再開します。

➡**注意**：リテールモードは、小売店/ショールームのデモ用に作成されています。

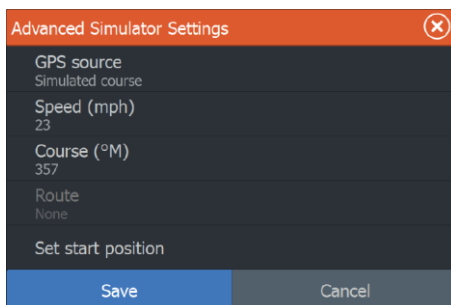
シミュレーターソースファイル

シミュレーターに使用するソナーデータファイルを選ぶことが可能です。システム内にソースファイルが1セットあり、カードリーダーに挿入したカードを使ってファイルをインポートすることが可能です。自身で記録したソナーログデータファイルをシミュレーターで使うこともできます。



高度なシミュレーターの設定

高度なシミュレーターの設定によって、手動でシミュレーターを制御することが可能です。



GPSソース

シミュレーションされたGPSデータ用にファイルを選択します。

スピードとコース

GPSソースをシミュレーションされたコースに設定する時に、手動で値を入力するために使用します。それ以外に、スピードおよびコースを含むGPSデータは、選択したソースファイルから入力します。

スタート位置の設定

自身でシミュレーションしたボート位置を現在のカーソル位置に設定します。

➡**注意**：このオプションは、GPSソースをシミュレーションされたコースに設定するときのみ使用可能です。

Document version: 001

© 2024 Navico Group. All Rights Reserved.
Navico Group is a division of Brunswick Corporation.

®Reg. U.S. Pat. & Tm. Off, and ™ common law marks.
Visit www.navico.com/intellectual-property to review
the global trademark rights and accreditations for
Navico Group and other entities.

www.lowrance.com